「国際協力」って何だろう?

世界をどう見るか,世界とどうかかわるか -

中村ひとみ NAKAMURA HITOMI

瑞穗町立瑞穂中学校(京都府)

実践教科総合的な学習の時間「国際理解教育」 時間数 4時間 対象生徒・学年 1年生2クラス 対象人数 45名

カリキュラム …………

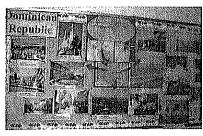
実践の目的

本校は瑞穂町唯一の中学校である。町の任用の AET(アメリカ人)が常時本校におり、英語の授業 以外でも学校の内外で日常的に接する機会が多く、恵 まれていると言える。しかし、国際理解と言っても欧 **米諸国や近隣のアジア諸国中心でその他の国、特に開** 発途上国については、子供達が教科書以外で見聞きす る機会はほとんどない。今回、この海外研修に参加で きた自分自身の体験をもとに、次の事柄をねらいとし た。

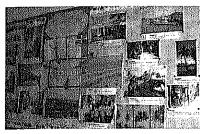
授業の構成 使用数数 時限・テーマ・ねらい アンケート用紙 1. 前日にアンケートを行い、生徒のドミニカ共 **御訳形** 写真を読もう、写真で語ろう ・ドミニカ共和国で撮った写真 和国に対して抱くイメージを知る。 ~フォトランゲージ~ 写真を読み解くことでドミニカ共和国への関 (A3サイズに引き延ばしたも 2. 各班毎に1枚の写真を割り当てる。気づいたこ の) 10枚 とを出し合い、まとめたものを代表生徒が写 心や理解を深める。 ・ワークシート(1) (資料1) 真を示しながら発表する。 3. 他の班の写真を見て、各自印象深い写真を5枚 選びランキングする。 (名語形) ドミニカ共和国を知ろう 1.ドミニカ共和国の公的機関、風景、建物、日 ・自作スライド ・ワークシート(1) (資料1) 本語学校と中等学校、都市部や地方の人々、 ドミニカ共和国の様子や生活、文化、日本と 食べ物、協力隊員やSVの活動の現場等を編集 ・世界地図、ドミニカ共和国の の関わり等を知る。 地図、国旗、紙幣 したスライドを見る。 2. 各自心に残った場面を、興味深い順にランキ ングし、ワークシートに記入する。 1, アンケート、ランキングのまとめを見る。 ・アンケート・ランキングのま (6) 景原 開発途上国とはどんな国だろう とめ (資料2) 世界の見方、外国の捉え方が欧米等の先進国 2. 普通見慣れたものとは異なる2種類の世界地図 ・ワークシート(2) (資料(3) を見て、違いを考える。 に偏りがちなことに気づき、開発途上国につ ・GNPで表した世界地図 3. アニメーションビデオ「開発途上国ってどん いての認識を深める。 (「南北問題と開発教育」より) な国?~小さな友情から大きな夢へ~」を見て、 ・オーストラリアが中心の世界 開発途上国での子供達の置かれた環境、生活 の困難さ等の現状を知る。 「開発途上国ってどんな国? ~小さな友情から大きな夢へ ~J (JICA) ◎ 国際協力とは?

~日本がすべきこと、私たちができること~ ODAや国際援助について理解し、自分の生 活を振り返り、今後の行動へと結びつける。

- 1. ドミニカのスライドや前時のビデオで見た青 年海外協力隊、シニアボランティアの活動や、 ビデオ「JICA君の国際協力ってなあに?」 「ODAって何だろう」を見て、日本がおこな っている国際協力や国際援助、ODAについて ワークシートに記入しながら理解する。
- 2. 国際協力で大切な事は何かを考える。
- 3. 自分が今後どのような行動をしていくかを含 め、学習のまとめの感想文を書く。
- 「JICA君の国際協力ってな あに?」「ODAって何だろう」 (JICAビデオ)
- ・「学校へ行きたい」(JICAバ ンフレット)
- ワークシート(3) (資料4)



(写真①) 国際理解コーナー 「ドミニカ共和国」



(写真②)

- 1. 英語圏以外の文化や日本から遠く離れた中米の 人々の生活を知ることにより、外国に対する固定し たイメージや偏見に気づき、広く世界を見る目、多 角的に物事を捉える目を養いたい。
- 2. 開発途上国の現状と、そこで活躍されている青年 海外協力隊やシニアボランティアの様子や日本がお こなっているODA等の援助について知り、同じ地 球に住む一貫として、自分がどのように行動してい くかを考える契機にする。

授業の詳細

事前アンケート◆

授業をする前日に、ドミニカ共和国に関する生徒達の知識や関心の度合いを知るため、全く予告をせず、アンケートをおこなった。授業を行ったのは11月で、その1か月前位から「国際理解コーナー」の掲示板に、「ドミニカ共和国」の地図も含めた研修時の写真の掲

示をしていたのだが、詳しく見ていた生徒は少ない様であった。

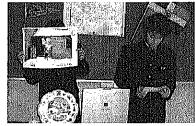
【資料1アンケート用紙、ワークシート(1)】【写真①、②】 アンケートの結果、ドミニカ共和国の位置を正しく答えられた生徒は2割に満たなく、アフリカ、アジア、不明などの回答が半数あった。また、ドミニカ共和国について知っていることは、「野球のサミー・ソーサの国」「暑い国」であると数人が答えた以外はほとんどが「わからない」と答えていた。どんな国か、ということでは、「肌の色が黒く」、「気候は暑く」、「貧しい国」で、「子供達は明るく、学校に行けずに働いている」という答えが多かった。

【資料2 事前アンケート・ランキングのまとめ】

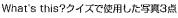
1時限参写真を読もう、写真で語ろう~フォトランゲージ~

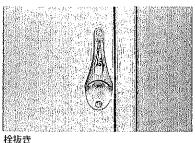
ここでは、生徒達が先入観を持たずに写真を見て、そ の写真だけから情報を読み取ることにするため、敢え てアンケートの結果には何も触れずに授業を始めた。

フォトランゲージをする前に、導入として、"What's this?" というクイズ形式で、ドミニカ共和国で撮ったいくつかの写真を見せて何か当てさせた。一つ目は、滞在していたホテルのドアに付いていた「栓抜き」。二つ目はトイレットペーパーを流さずに捨てる「ゴミ箱」。三つ目は土産品の「マラカス」の写真である。

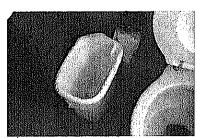


写真からわかったことを発表





ゴミ箱





マラカス

33



次のフォトランゲージは、クラスの班毎(全部で10 班)に行うことにし、A3サイズに引き延ばした写真 10枚(A~J)をアトランダムに各班に配った。生徒 達は各自、ワークシートに写真を見て分かること、気 づいたことを書き、それを班でまとめ、順に代表生徒 が前に出て写真を見せながら発表した。また、各班の 発表を見て、印象に残った写真を 1 位から 5 位までランキングし、ワークシートに記入した。

【資料1 ワークシート(1)】

各班の生徒が発表した内容は次のようなことである。

写真A: 首都サントドミンゴの大通り、信号待ち の車、バイク

- ・街の雰囲気が日本と似ている。
- ・看板の文字が英語のようだ。
- ・車にナンバープレートがない。左ハンドル。

写真B: サントドミンゴの通りを行く物売りの少 年達

- 道にゴミがたくさん捨ててある。
- ・黒人の子ども。生活が貧しそうだ。

写真C:家の前に立っている小さな男の子

- ・服を着ていない。靴をはいていない。貧しそう。
- ・家が木でできている。窓ガラスがない。屋根がかわ らじゃない。暑そう。

写真D:ショッピングセンター内のファーストフ ード店

- ・ファーストフードの店のようだ。
- ・マクドナルドのマークの紙コップがある。

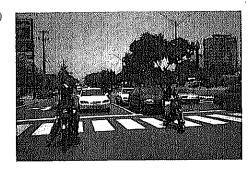
写真E:ハイウェイのドライブイン内

- ・売り場のケースにパンがぎっしり詰め込んである。
- ・お父さんが子どもに買ってあげている。
- ・「三ツ矢サイダー」という日本語が書いてある。

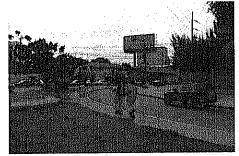
写真F:家の前の木陰でくつろぐ大人や子供達

・木など自然が多い。木がいっぱいある。気温が高そうだ。

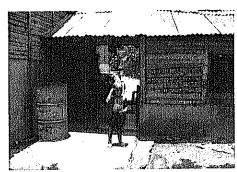
(写質A)



(写真B)



(写真C)



(写真D)



(写真E)



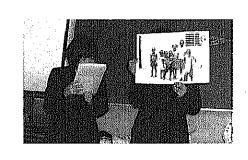


(写真F)

- ・半そで、短パンの人が多い。
- ・ほとんどの人が靴下をはいていなくてサンダルである。

写真G:地方の町の子供達

- ・子供達はみんな裸足。
- ・女の子は髪の毛をくくっている。男の子は髪の毛が 短い。
- ・男の子は上着を着ていない。上半身裸。



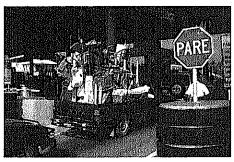
(写真G)



(写真H)

写真H: 日本語学校の生徒達

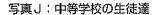
- ・学校内が上足だ。
- ・みんな同じ服装。日本とドミニカの国旗がプリント してあるTシャツを着ている。
- ・バケツにひらがなで「にほんごがっこう」と書いて ある。
- ・ぼく達の写真を見ている。



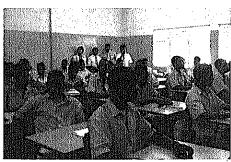
(写真 |)

写真 1: ハイウェイの料金所

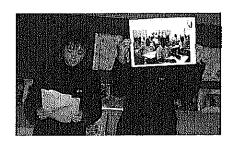
- ・高速道路の料金所のようだ。
- ・TOYOTAとSUZUKIの車がある。
- ・ナンバープレートがない。



- ・水色のカッターを着ている。
- ・ほとんど全員が男子だった。
- ・黒人と白人が分かれて座っている。



(写真 J)





ランキングの結果は第1位が [写真C:家の前に立っている小さな男の子]、第2位が [写真G:地方の町の子供達]、第3位が [写真]:中等学校の生徒達] という結果であった。また、フォトランゲージをやってみての感想では、「詳しく見て面白かった」、「ドミニカのことがよくわかった」、などが出された。

【資料2 アンケート・ランキングのまとめ】

2時限◆ ドミニカ共和国を知ろう

次に、自作のスライド(自分や同行の先生方が撮った写真をCDに焼いて編集し、パソコンからプロジェクタを使い映写した)により、自分が見聞きし体験したドミニカ共和国を生徒達に紹介した。スライドは、実際の行程順ではなく、観点・テーマ別にした。

スライドのテーマは、①JICAはじめ大使館、文部省等の『公的機関』、②日本語学校、中等学校(日本の高校にあたる)等の『学校関係』、③首都サントドミンゴの『都市の風景や人々』、④ソーナコロニアル等の『歴史的建造物や観光名所』、⑤サマナ方面の『地方の風景や人々』、⑥『ドミニカ共和国の食べ物・特産物』、そして中心的なテーマである、⑦JICAがおこなっている国際援助の現場で、『協力隊員やシニアボランティアの活動の様子』を順に、説明しながら見せていった。(スライドは略)

生徒達は見終わった後、心に残った場面を1位から5 位までランキングし、感想をワークシートに記入した。

【資料1 ワークシート(1)】

ランキングの1位は、かなり衝撃があったためか『15歳の母』で、「すごく若いのに大変・びっくりした・もっと年上に見えた・曾々おばあちゃんがいた』などの感想があった。2位が『日本語学校』、3位が『バナナ』、4位が『靴磨きの少年』と『ドミニカ料理』、6位が『トイレ』の順であった。また、ドミニカ共和国の現実の姿は、生徒達の想像とかなり違っていた点も多かったようである。

3時限◆開発途上国とはどんな国だろう

前時におこなったフォトランゲージとドミニカ共和 国のビデオのランキング集計や感想のまとめを見せた 後、1 枚の世界地図を黒板に掲示した。それはいつも 見慣れた北が上になった地図ではなく、南が上の南半 球中心のオーストラリアの地図である。これにより、 世界観が固定したものではなく、国によって違うこと を伝えた。

次に、プリントで各国のGNPを面積で表した「GNPによる世界地図」や2001年世界各国要覧から抜粋した、乳児死亡率や平均寿命、国民総生産、自動車保有台数、テレビ使用台数、エネルギー消費数、識字率等を見せた。「GNPによる世界地図」では、日本は、実際の面積が大きい中国やブラジルの5~6倍以上あり、アメリカ合衆国に匹敵する程であることがわかる。また、乳児死亡率が日本では1000人中4人に満たないが、ドミニカ共和国では42人、タンザニアでは86人にものぼる。自動車やテレビの保有台数も、タンザニアでは日本と比べものにならない位少なく、生徒達もその格差の大きさに驚いていた。

続いてJICAよりお借りしたビデオ「開発途上国ってどんな国?~小さな友情から大きな夢へ~」を見る。日本の少年が、医師である父親が派遣されたアフリカの開発途上国を訪れ、そこで友選になった少女を通して、開発途上国の生活や環境の困難さや、何を必要としているのかを理解していくアニメーションで、生徒達にも分かり易く、身近に捉えられたようであった。

【資料2 アンケート・ランキングのまとめ】 【資料3 ワークシート(2)】

4時限◆国際協力とは?

~日本がすべきこと、私たちができること~

ドミニカ共和国のスライドや前時のビデオで、青年海外協力隊の活動の様子が伝えられていたが、さらに詳しくODAや国際援助についてのビデオを視聴する。ワークシートに記入しながら、ODAとは何か、日本がおこなっている国際協力や国際援助、ODAについて理解していく。また、国際協力で大切な事は何かを考え、自分が今後どのような行動をしていくかを含め、学習のまとめとして感想文を書かせた。

【資料4 ワークシート(3)】

ワークシート(2)の生徒の感想より◆

(1) 資料やビデオを見て、開発途上国について分かったこと、思うこと

- ・開発途上国では人々が苦しい生活を送っている。栄養や食物の不足により体がやせ細り、死亡率が高いことが分かった。
- ・食べ物や着る服がなくて、貧しい国が世界で40カ国も あること。日本人も海外に行って、その国の人達を助け て暮らしを豊かにするために、井戸を掘ったりしていた。
- ・鉛錐1本でもすごく大事にしている事や殆どのもの を再利用している事がわかった。
- ・薬が不足していること。きれいな水が飲めないこと。 干ばつがあることなど。
- ・貧しい国が世界の3分の2を占めていること。国と 国は助け合っていること。
- ・乳児死亡がとても多くて悲しかった。日本の人が海 外で活躍していてうれしかった。

(2) 国際協力をしていく上で大切なことは何か

- ・相手の国や人々のことをよく知り、その上で協力していくこと。
- ・お互いを理解すること。仲良くしようと思うこと。 感謝したりされたりする。
- ・物を大切にして、少しでもたくさんの物をリサイク ルなどしていく。
- ・お金や物も大切だけど、外国へ行って技術を教える 事はとても大切な事だと思う。
- ・互いの国が助け合い、協力し合ってこそ平和になれ るんだと思った。

成果と課題 ………

授業をするにあたって、私が生徒達に最も伝えたかったことは、『自分の目で見、自分の頭で考え、自分が行動する』ことの大切さと、開発途上国で地道に努力を重ね、活躍されている青年海外協力隊員等の姿を通して、国や文化の違いを超えて人と人が分かり合い、協力することの大切さであった。しかし、限られた時間数の中でどういう形で、また、どこに焦点をあてて授業を組み立てるかは、大変悩むところであった。

実際に授業をおこなってみて、1時限目のフォトランゲージは、生徒自身が考えながら、意識的に写真を読み取っていくことで、新たな視点をもったり、自分自身の振り返りができ、効果的な手法であった。このフォトランゲージやスライドに現れた、現実の途上国の様子やそこで生き生きと生活を営む人々の明るさ、たくましさは、生徒達が漠然と抱いていた「開発途上国」に対するイメージを大きく塗り替えたのではないかと思う。

また、もう一つのねらいであった、「国際協力とは何か」「自分はどのように行動していくか」については、やや知識の詰め込みになってしまい、生徒自身がじっくり考えたり、課題を見つけるまでには至らなかったようである。「ドミニカ共和国」という入り口から、一歩足を踏み入れたばかりの「国際理解」。今後、生徒と共に私自身もどう「行動」していくのかを模索し、生きた力となる「国際理解」を目指し、実践を進めていきたい。

全体の感想より

【1組】

- ・資源を大切にして外国のための募金をしたい。そして、地球の 一人として、協力したい。
- ・日本は、いろんな国のために、たくさんのお金を出していることが分かった。私達にとっては、水は普通にあるものだけど、初めて水が出てうれしい、という国があるのを知って、電気や水は、すごく大切なんだなとよく分かった。日本は少しぜいたくすぎると思った。全ての国が幸せに、平和に暮らせるといいです
- ・日本は、他の国から資源とかを輸入しているから、他の国と違っていい暮らしができるのだと思う。…ビデオを見て「JICA」が

- どんなものかがわかった。ぼくらもいろいろ考えるべきだと思う。例えば、 すぐにものを捨てないこと。
- ・みんなが助け合い、世界全体がつながっていることが分かった。日本のように物があふれ、粗末にする国に比べ、一つ一つの物を大切にし、資源を粗末にしないところがすごいと思った。日本も昔、助けられ、その恩返しにもなっていると思う。
- ・日本はとてもいい国だと思った。そして、日本に生まれて本当によかったと思った。私達が豊かな暮らしをしている分、貧しい国を援助するのは当たり前だと思う。私達ができることは、ユニセフなどのお金を集めることはできると思う。
- ・ぼくも、使えない物でもリサイクルして大切にしたい。



- ・日本は他の国に比べて平和だなあと思いました。ぼく達は、 学校に行けて、ごはんも食べられて、とても幸せだけど、他の 国は、学校に行きたいけど行けなかったり、ごはんを食べられ なくて、腕や足が細かったりしていたことが分かった。
- ・ぼくは、日本がいろんな国に支援をしていることを知らなかった。また、第二次世界大戦の終わった後、外国に支援してもらったということも、知らなかった。
- ・日本はとても暮らしが豊かで、私遠は恵まれていると思った。 私は日常ですぐに紙を捨ててしまったり、食べ物を粗末にしたり…日本の人達は楽し過ぎているし、物を粗末にしている人が多い。とても貧しい国では、食べ物さえ口にできないけど、頑張っている人がいる。そして、笑顔が消えない。…ビデオを見て、すごく気持ちが伝わって来て、ちょっとのことでも協力していきたいと思った。
- ・これからは物をむだにしないように、最後まで使っていきたい。 「JICA」ということを初めて知った。今、食料や水などが足りない国に行って、皆で協力し助け合うことをやっていてすごいなあ、と思った。
- ・世界は、協力して助け合うことが大切だと思った。今の日本が、道路が整い鉄道が通って豊かなのは、世界からお金を借りたりしていたからだと分かった。だから、開発途上国へ行って技術を伝えたりしていることがよく分かった。これからは、地球の資源を無駄使いしないように心がけたいと思った。
- ・日本と違い、開発途上国は物がなく、食べ物や水までもない 地域もあった。干ばつやバッタの被害もあった。ぼくも物を大 切にしていきたい。
- ・地球にはいろいろな国があるというのが分かった。ぼくは、本 当に、今日本に生まれてよかったと思う。地球の80%が開発 途上国だということがわかった。
- ・世界には、食料、服、教育などがない国があり、苦しんでいる人がいる事が分かった。同じ地球に住んでいるのに、この様な差があるのはおかしいと思う。日本が様々な国へ支援をしていた事を知った。…これからは少しでも募金をしたり、いろいろな国や人を助ける様な事がしたい。
- ・日本が他のいろんな国を助けている事がわかった。日本は助けてもらったことがあるから、助けてあげていることがわかった。…日本にとって小さな物でも、途上国にとってはどんなものでも大切にするということがわかった。
- ・ぼくは、日本が他の国々に援助をしているのが、ビデオでわかった。他の国々では、お金がないから困っている国もある。日本が援助しているのが1位なのがすご過ぎだ。もっと他の国と仲良くしたらよいと思った。
- ・貧しくても、明るく生きていてすごいなあと思った。強いなあと思った。勉強したくてもできない人もいるんだなあと思った。 みんな日本に感謝していると分かった。助け合っていけばいいなあと思った。

【2組】

・ドミニカとかの事をいろいろ勉強して、貧しい所がたくさんあ

- ってびっくりした。学校に行けない人がいたりして、大変だな あと思った。ビデオを見て、えんぴつ1本でも大切にしなけれ ばいけないんだなと思った。
- ・改めて、日本って裕福なんだなと思った。日本の人は、物を 相末にする人が多いので、物を粗末にしてほしくないです。あ と、無駄遣いも、あまりしない方がいいと思った。…日本も助 けられているのだから、他の国を助けていかないといけないと 思った。
- ・この広い地球上で、貧しい生活をしている国があることが分かった。これから、物を大切にしていきたいと思った。 ボランティアをしたり、いろいろ世界の人に役立てることをしていこうと思った。こういうことを行動で表せるように頑張ってい
- きたい。 ・この広い地球で、言葉も通じないけど、いろいろな行動で助 け合って、生きている仲間の一人として、どんな小さな事も意
- 識して生きていたいと思う。
 ・貧しい国に、技術を少しでも教えたい。世界の3分の2が貧しい国だと知って、協力するのは大切だと思った。助け合って生きていくのがとても大事だと知った。
- ・世界には、電気、水道、学校などに困っている人がたくさんいる。だから、日本が国際援助の1位でも、お金の無駄遣いはやめようと思った。お菓子などを買った少しのお金でも、薬1つ買うのにはたくさんのお金になるから。日本はこれからも、援助の世界1位であってほしいです。
- ・同じ地球に住んでいるのに、生活が全然違っていることが分かった。日本がODAで世界1位だったことがすごくびっくりしたし、これからもいろんな国に援助してほしいです。たくさんの国が困っていることがわかり、よかった。私もできることがあったらやりたい。
- ・みんな国は違っても、一緒の人間なんだということが分かったし、貧しい国があったら助け合うということが大切なんだということが分かった。私達が普通に行っている学校に、行きたくても行けない国があるのは、本当にかわいそうだと思った。
- ・これからは、えんぴつが短いから使わないとか、もう使わないから捨てようとかいうのはやめていきたいです。ビデオで見た 国などにいろいろな援助をもっとしてあげてほしいと思った。
- ・私が今まで国際協力のことを学習して思ったことは、日本は 無駄づかいなどをしているけど、食料や水などに困っている国 がこの21世紀にもあるので、無駄づかいなどをしないようにし ない。
- ・ドミニカ共和国や他の貧しい国のことを勉強して、とても貧しい国が多くて困っている人がたくさんいることが分かった。… 私達の生活とは全然違って、生きていくのすらもたいへんそうだった。私達は、鉛筆1本だけあってもそんな喜ぶことでもなく、あるのが当たり前という感じだけど、貧しい国ではそれがあれば、すごく役に立って、すごく喜んでいるんだな、と思った。 …日本は、貧しい国にお金を援助しているのは良いことだけど、エネルギーをたくさん使っているし、ぜいたくな暮らしをして欲張っている人が多いと思う。

- ・世界にはまだまだ貧しい所もあって、飢えで死んでしまう人が たくさんいるのは、悲しいことだと思う。同じ地球に住む一人 として、資源を大切にし、他の人々や地域の生活を知ってい
- ・ドミニカの勉強では、いろいろな場面のスライドを見て、日本 と同じようなファーストフード店や高速道路などもあったけど、 窓のない家や医療設備の少ない病院など、いろいろな問題 を抱えている事がわかった。その他の国の勉強では、どの国

よりも日本は、とても経済的によくて、テレビ、車などがとて も揃っていることがわかった。…学校にも行けない、食べられ ない、水がない、電気もない、そういう国の人達に、中学校で も募金をやったらいいと思う。…ぼく達は外国からの輸入で食 べ物を得たり、 治る物を得たりしているのだから、無駄な資源 を使わないようにして、その余った資源を貧しい国に寄付した らいいと思う。

1~2時限 アンケート用紙・ワークシート(1)

	19期以とこにありますか?下に自分で大まかな世界地間 5株しましょう。	·····
2. ドミ おカ共 文にしてみまし	和国はどんな街でしょうか?次の容き出しに続けて,f よう。	1分が思うことも
1)ドミニカ共和	<u> ში</u> კგ ხი ციტს <u> </u>	、晴を越します。
2)ドミニカ共和	国の気候は	
1) ドミニカ共和	関の人たちの暮らしは	
1) F = = 73 EN	国の子どもたちは	
ひ ドミニカ共和	即について知っていることは	
		,
3台建筑学智(I	国内当解。 1年()妇()姐 氏名()
于一平 3合課 理学管([「協復協力」って何だろう?	
7-7	「脳海ねカ」って何だろう? 一 世界をどう見るか、世界とどうかかわるか	
テーマ 1、「写真を注む	「阪海ね力」って何だろう? 一 世界をどう見るか、世界とどうかかわるか 3、写真で語るう」~フォトランゲージ~	Viene
テーマ 1、「写真を注む	「脳海ねカ」って何だろう? 一 世界をどう見るか、世界とどうかかわるか	
テーマ 1、「写真を注む	「阪海ね力」って何だろう? 一 世界をどう見るか、世界とどうかかわるか 3、写真で語るう」~フォトランゲージ~	Viene
テーマ 1、「写真を注む	「阪海ね力」って何だろう? 一 世界をどう見るか、世界とどうかかわるか 3、写真で語るう」~フォトランゲージ~	Viene
テーマ 1、「写真を注む	「阪海ね力」って何だろう? 一 世界をどう見るか、世界とどうかかわるか 3、写真で語るう」~フォトランゲージ~	Viene
テーマ 1、「写真をほせ (1) 写几をΩ	「阪海ね力」って何だろう? 一 世界をどう見るか、世界とどうかかわるか 3、写真で語るう」~フォトランゲージ~	Viene
テーマ 1、「写真をほせ (1) 写几を見 : : : (2) 各項の写。	「以内的カ」って付たろう? 一 世界をどう見るか、世界とどうかたわるか う、写真で見るう」~フォトラングージ~ 「ピゴいたことも出し合かう。 ※ 写真の記号 [1
テーマ 1、「写真をほせ (1) 写几を見 : : : (2) 各項の写。	「原物加力」って何だろう?	1
テーマ (1) 写真を疑む (1) 写真を及 (2) 寄刊の事 (2) 寄刊の事	「原物知力」って何だろう? 一 世界をどう見るか、世界とどうかたわるか 5、写真で語るう」~フォトランゲージ~ C新づいたことも出し合から。 然 写真の記号 [「毎年元、何念に持ったものもランキングしよう。 「記り、発表した日	1
テーマ (1) 写真を接続 (1) 写真を見 (2) 各項の写 (2) 各項の写 1(2)	「原物知力」って何だろう? 一 世界をどう見るか、世界とどうかたわるか 5、写真で語るう」~フォトランダージ~ C新づいたことも出し合から。 然 写真の記号 [「本見て、何念に持ったものもランキングしよう。 「は、現実した日 日と印象に残ったとこ 「は、現	1
テーマ (1) ガルモΩ (2) 各項の方 (2) 各項の方 (2) 日の	(原物加力)って何だろう?	1
テーマ (1) 写真を接続 (1) 写真を見 (2) 各項の写 (2) 各項の写 1(2)	「原物知力」って何だろう? 一 世界をどう見るか、世界とどうかたわるか 5、写真で語るう」~フォトランダージ~ C新づいたことも出し合から。 然 写真の記号 [「本見て、何念に持ったものもランキングしよう。 「は、現実した日 日と印象に残ったとこ 「は、現	1
(2) SHOP. (2) SHOP. (4) 314	「阪田知力」って何だろう? 一 世界をどう見るか、世界とどうかかわるか う、写真で見るう」~フォトランゲージ~ で成づいたことを出し合おう。 ※ 写真の記号 [「本見て、何余に持ったとのをランキングしよう。 「は、現 「後、時 「後、時	1
(2) \$400% (2) \$400% (2) \$400% (2) \$400% (3) \$400% (4) \$400%	「阪海知力」って何だろう? 世界をどう見るか、世界とどうかかわるか 本界で頂るう」~フォトランゲージ~ でパゴルたことを出し合おう。	1



◆事前アンケート◆

1.ドミニカ共和国の位置は?	
・中米付近でほぼ正しかった人は1組3名、	2組5名
・ 北米または南米にした人は 1組6名,	2組9名
・アフリカ大陸にあるとした人は1組7名、	2組2名
・アジアにあるとした人は1組2名、	2組4名
・その他ヨーロッパやオーストラリアなど 1組1名。	
・不明1組3名,	2組1名
2.ドミニカ共和国はどんな国でしょうか?	
(1) ドミニカ共和国の人たちの肌の色は	
・「黒」1 組13名、	2組16名
• [茶色]	2組4名
・「白 その他1組2名、	
(2) ドミニカ共和国の気候は	- 42 - 1
・「とても暑い」「暑い」1 組11名,	2組10名
・「暖かい」1組5名,	2組2名
· [乾燥 ···································	2組3名
・「晴れている」1組3名,	2組3名
・「寒い」1組1名,	2組3名
(3) ドミニカ共和国の人たちの暮らしは	F 477 2 -171
・「貧しい」「苦しい」」組11名,	2組6夕
・「豊か」1組2名,	ク組3夕
・ 量が」 ・ ・ 「その他	2 144 3 14
いつもお腹がすいている,平凡,野性的,果物をよ	トく食べる
行りや漁をしている、みんな遊ぶことが好き、 条	
家がわら等でできている、裸足でくらしている。	
然がわら等でできている。 殊足でくらしている。 れている等	13 W. 1 - 10 A
(4) ドミニカ共和国の子どもたちは	
・「元気 「明るい 1組4名, 2組12名	
・「元式」「明るい」「組4 石, 2組12石 ・「学校に行けない」「働いている」	1紹1女
・ 子校に行けない。 動いている。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 1 400 4 400
やせている、小さい、人なつっこい、外で走り回	って流んで
いる。たくさんいる。かしこい、足が速そう。野	
いる。たくさんいる。かしこい、たか盛くり、却一をしている等	かん カンソ
ーをしている等 (5) ドミニカ共和国について知っていることは	
,	t.ih
・赤道の近く ・サミー・ソーサの出身 ・暑い ・小さい国	ve.
・子どもは野球が好き ・先生が行った国	
・ ドミニカとドミニカ共和国とは違う国	
・トミニガとトミニガ共和国とは遅り国・肌の色が黒い	
・肌の色が無い ・[ない][分からない]1 組10名,	2 終1 1 夕
・1 冬 (川 かからまた川」 (昭 10 日)	で 小口 44 1円

◆フォトランケージ・ランキング◆

(印象に残ったところ)

- 1位 C (家が貧しそう・男の子が暑そうでかわいそう・一人で 何をしているんだろう)
- 2位 G (みんなかわいい・男の子が上半身裸・みんな裸足だっ た)
- 3位 」(ほとんどが男子・水色のカッターシャツ・女子が一人 だけ・白人の人もいる)
- 4位 A (車が多い・日本と同じ・道路が広い・かなり都会・ナ ンバープレートがない・左ハント´ル)
- 5位 E (パンがいっぱい・ジーパンが多い・親子で買い物・日 本語で[三ツ矢サイダー])
- 6位 B (ゴミがたくさんある・子どもが物を売っている)
- 7位 H(日本語を習っている・同じTシャツ(胸に日本とドミ ニカの国旗)・学校の中も土足)
- 7位 1 (日本車・車にSUZUKI, TOYOTA等の文字・引っ越し

のよう・荷物がいっぱい)

- 9位 D (ファーストフート'があってビックリ・にぎやかな場 所・"マクト"がある・エスカシーターがある)
- 10位 F(木が多い・暑そう・遊んでいる・木陰が涼しそう)

※フォトランゲージをやってみて思ったこと:

・その場面、場所の様子をくわしく見て、特徴等を探すのが面 白かった。 ・細かい所まで見ていろいろ分かった。 ・ドミニ カのくらしや様子がよく分かった。

(心に残ったこと、興味をもったこと)

- 1位 「15歳の母」(すごく若いのに大変・びっくりした・もっ と年上に見えた・曾々おばあちゃんがいた)
- 2位 「日本語学校」(みんな熱心・日本語で「赤とんぼ」を歌って いた・大縄で遊んでいた)
- 3位 「バナナ」(まだ繰っぽい・車にたくさん積まれていた・天 ぶらのようなのを食べてみたい)
- 4位 「靴磨きの少年」(小さい子が働いている・家はあまり裕福 ではないのかな)
- 4位 「ドミニカ料理」(おいしそう・バイキングみたい・ごはん 等日本と同じのがあった・カレーのよう)
- 6位 「トイレ」(ドミニカにも水洗トイレがあった・紙を流した らダメ・簡単なトイレ)
- 7位 「漢字カルタ」(私達が作ったもので遊んでもらえた・みん な楽しそうだった)
- 8位 「牛」(すごい模様だった・牛がカメラの方を見ていた・大 きい牛だ・)
- 9位 「地方の家」(とてもカラフル・雨が降ったら冷たいだろう な・みすぼらしく簡単な家)
- 10位 「マンゴー」(バケツー杯で何百円は安い!・ノンビリ売っ ている)
- 11位 「店」(パンがおいしそう・いろんな店があった・マクド ナルドがあった)
- 12位 「ケーキ」(とてもおいしそう・太りそう・カロリーが高そう)
- 12位 「ネコ」(かわいかった・どんな鳴き声か気になる・自由 にうろついている)
- 12位 「病院」(ゴミが適当に捨ててあった・カルテがちゃんと 書けていない)
- 15位 「物売りの少年」(子供が働いている・Tシャツを売ったり していた・かわいそう〉
- 16位 「中等学校」(新学期が9月から・ドミニカでは英語も習 う・授業が楽しそう・みんな真剣)
- 16位 「ニワトリ」(柵の中に飼われていない・模様が細かい)
- 16位 「オサマ川」(大きな川だった)
- 16位 「子供達」(靴をはいていない・裸足で痛くないのかな・ 日系の人がたくさんいる)
- 16位 「バイクタクシー」(バイクのタクシーは初めて見た・乗 ってみたい・どれぐらいスピード出るのか)

※想像と違ったこと、意外だったこと:

・15歳で母親になっていて、ドミニカは早いのかと思った。 ・自然が豊かで海がとてもきれいだ。 ・子供が裸足や上半身 裸だった。 ・黒い肌の人ばかりと思ったけれど、白っぽい人 もいた。 ・たくさんの子供が働いていた。 ・街が意外にきれ いだった。 ・みんな明るそうな人達ばかりだった。 ・瑞穂町 より都会みたいだ。 ・暮らしが厳しいと思った。 ・ユニーク な家が多かった。 ・戦争が起こって食糧不足や地雷だらけだ と思っていた。 ・貧しい所と裕福な所の差が激しい。 ・中心 地は日本と変わらないのに地方はすごく田舎で貧しそうだ。



		1年(/ (H		, 10	L LL 1	<u> </u>		
₹ - ₹					11世 150	د مو سو	5 A) A)	わるか	
	ことんなり	国?							
GND7	で禁し.	九州野	e Hihre	a i	な.	! #!			
GIVE	-XV	1000	1312	רוי	۳.	11773			
	1 >		— 世界をと 4時限目] 毎浄上国ってどんな国? 1 >	— 世界をどう見る 4 時限自] 各強上国ってどんな国? 1 >	4 時限自] 発途上国ってどんな国? 1 >	世界をどう見るか、世界 4 時段目] 応法上国ってどんな国? 1 >	世界をどう見るか、世界とど 4 時限月] 未独上配ってどんな個? 1 >	— 世界をどう見るか、世界とどうかか 4 時限自] 年途上国ってどんな国?	— 世界をどう見るか、世界とどうかかわるか 4 時刊日] 発達上国ってどんな国? 1 >

<資料2> (2001 世界会園業質より)
日本 ドミニカ共和国 クンザニア連合共和団 人口 12648.6万人 8232万人 32102万人 万元 37、8万元司 4、9万十司 8 8、4万上司 8 8、4万上司 3.5人/大司 3.7、8万元司 4、9万十司 3.6人/大司 3.6人/大司 3.5人/大司 3.8人/大司 3.6人/大司 3.5人/大司 3.8 8~ 4.2 0.5。 8 8 5.5%。 平均身合 男7701 (15 安 83.50 度 男6706 底 を 7170 度 男4706 底 55.50 度 関係技工業 4 0、8 9 1 (6) 上 1 4 5 (8) 上 7 2 (8) 上 1 4 5 (8) 上 7 2 (8) 上 1 3 5 (2) 上 1 7 7 0 1 上 2 2 0 1 上 1 5 (2) 上

(1)資料やビデオ「小さな友情から大きな夢へ」を発て、開発途上国についてどのようなことが分かりましたか。また、思うことも書きましょう。

分かったこと:

2. 「個牌協力・〇	D Aって何だろう?」			
(i)「JIC/ 答えなさい。	君の国際協力って知	> T & M O O	Aって何だろ	うりを見て後の飼い
①開発途上側の人	、口は世界全人口の何の	የሮ ፑか.	(%)
②開発途上図がた	いかえている問題点はん	でしょうか。	,	
①ODAとは何で	i≠h₀		********	
④日本の0DA は	は世界何位ですか。ま	た、国民一人	当たりいくら	ぐらいになりますか。
A2)	ま世界何位ですか。ま 位) (で助けてもらったこと		H)	
A2)	位) (H)	
A2)	位) (で助けてもらったこと		円) それはいつで,	
程) 北朝朝国ま本日優	位) (で助けてもらったこと	があります。	円) それはいつで、	
保) (数例組ま本目の (数例組まな日間)	位) (で助けてもらったこと	があります。	円)	どんな提助でしたか
保) (数例組ま本目の (数例組まな日間)	位) (でBHJでもらったこと Jですか。	があります。	円)	どんな提助でしたか



化合料	四字習「18	日本京正学の子」	1年()担() N E	4: \)
	7 ∼₹	 - (國際和	3カ」って 世界をど	何だろう う見るか。	? 世界とど	うかかわるか		
<学習	のまとめこ	>						
なた自	身体(宇宙	油地球号,	ょに住むー	人として	どのような! , どのよう 得きましょ	感想をもちま な行動をして : う。	したか。今 いこうと思	後,あ うか,
				,				
						,		
• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •							·····	
••••							·····	
				·····				
•								
	. * * * * * * * * * * * * * * * * * * *		·····				,	
								••••

参加動機およびシロフィール 中村 ひとみ

私は今年度で教職に就いて20年目を迎えました。現代の子ども達が学習に対する意欲はあるものの受動 的で自ら課題を見つけて学ぶことができなくなっていること、学習と実生活の結び付きが弱く、生活の 中で深く感動したり、疑問を持つこと自体が少なくなっていることを強く感じています。そこで、教科 の授業やホームルームで何とか生徒達の心を揺さぶり、自分の生活や生き方を深く考えるきっかけにな るような国際理解教育ができないものかと模索してきました。しかしいつも自分自身の"実体験"不足 を痛感していました。この研修では直接その国の人々や生活に触れ、文化や社会状況を学ぶことの出来 るまたとない機会であるため応募いたしました。国際理解教育への取り組みとしては、英語科で国際機 関や青年海外協力隊の活動の資料を使って紹介する他、家庭科では食料における南北格差の問題を話し たり、世界の住居や民族衣装、伝統料理を異文化理解の題材にしています。



ともに歩もう私たち同じ地球人

井本章子 IMOTO AKIKO

社会

実践校:天理市立西中学校

現任校:月ヶ瀬村立月ヶ瀬中学校(奈良県)

実践教科・時間数 社会 (6時間) 総合的な学習の時間 (16時間) 対象生徒・学年 1年 対象人数 5クラス (188名)

カリキュラム ……

実践の目的

国際理解教育の必要性が問われる中、生徒の心に響かないステレオタイプの知識注入になっているのではと悩んでいた。海外研修に参加する機会を得て、いろいろな人や文化と出会い、そこに住む生の人の姿や発展途上国で働く素敵な日本人がいることや、人間同士の結びつきを肌で感じることができた。発展途上国に対するマイナスイメージが一掃され、生き生きと暮らす文化のすばらしさを知った。この感動やぬくもりを子ども遂に伝えたい。プログラムを通して、子ども達が独自の文化で暮らす地球市民が一国だけでは生きていけないことや、違いを認め合いながら互いに認め合い支えあい生きていくことの重要性に気づき、自らの生き方を考えていく機会にしたい。

授業の詳細・

1~2時限◆私たちの周りに世界が見える 3~4時限◆フォトランゲージで世界を旅しよう 5~6時限◆ドミニカ共和国とは?

自分たちの周りにどれだけ世界のものがあるか、家から輸入品を持ち寄り班活動で紹介した。いろいろな国とつながっていることに気づき、また輸出できない国や南北問題について発展学習した。発展途上国の文化・暮らしを明るく生き生きと見つめることができてイメージがプラス思考になる。異文化理解や多様なものの考え方について理解し、世界の国と自分たちの国とのかかわりを考えるきっかけになった。

5~6時限で使用したドミニカ共和国の写真



こしょう農園の子どもと



日本語学校の生徒と



授業の構成

196516 - 112154		
旧版 o 另一文 o felsion	万法,内容	使用教材
(1) (2) (1) (1) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2	身のまわりの持ち物、食物のタッグなどからどこ から来たかを調べる。日本とのつながりを探る。 グループ学習	・世界地図 ・ワークシート(1) (資料1) ・GDPグラフ
(基本) フォトランゲージ 世界を旅しよう 発展途上国の写真から	写真をよく見ることで世界の国々への関心を持ち 文化習慣の理解を深める。班で協力し話し合い発 表する。	フォトランゲージ用写真集 (JICA)世界地図ワークシート(2) (資料2)
(1520年度) ドミニカ共和国とは? ドミニカ共和国ってどんな国?	ドミニカ共和国の資料から暮らしを想像する。日 本とのかかわり。クイズに挑戦。 陽気なラテンの人の暮らし。	・写真 メレンゲCD お土産 ・国旗 ワークシート (3) (資料3)
● 日本に来られる(住む)外国の人に とってのパリアを考えよう	校舎案内図を6ヶ国語で読む。(ドイツ・フランス・ スペイン・イタリア・中国・朝鮮語walk)	・ワークシート ・校舎案内図
②三月月日 外国の人への配慮 バリアを取り除くもの ピクトグラムの理解	どの国の人にもわかる表示を考えデザインする。 ALTの先生に読み取ってもらう。	ワークシート
● (10) (10) (10) (10) (10) (10) (10) (10)	・日本の進める国際協力・青年海外協力隊・シニア海外ボランティアの活動・研修報告・学年集会	・ビデオプロジェクター ・ワークシート ・ドミニカ土産
(1) (1) ゲスト・ティーチャーを迎えよう	奈良県内の研修生との交流会…コース別交流会の 準備をする。(中国・スリランカ・タイ・イラン・ブ ラジル5カ国8人の研修員の方)	・ワークシート ・国旗 ・世界地図
(E) (Minipa) ともに歩もう私たち同じ地球人 ・発見・ザ・ワールド ・体験・ザ・ワールド	コース別交流…教室で質問やクイズを通して知り 合う。 全体交流…体育館でコーナーに分かれ、遊び等体 験学習。	・ワークシート ・国旗 ・世界地図
(1582年15月) 私たちにできることは? 「自国を知り、他国を知る」 自国の良さを知り他国の文化を尊重する取り 組み	・国際交流に関心を持った生徒が考え行動する。 (コース別ボランティア活動) ・天理市外国人向けホームページ作成	・インターネット

7時限令外国の人にとってのバリアを考えよう 8時限令バリアを取り除くものを考えよう

普段の生活で文字を知らないことの不便さや困難さに気づき外国の人にとって日本が住みやすい国かどうかを考える。6ヶ国語校内walkラリーは、クイズ形式で取り組み盛り上がる。文字が読めないとトイレや病院にいけないことに気づいたようだ。どうしたらバリアが取り除けるか考え、ピクトグラム作成で校内案内図作成に取り組む。

9~10時限◆国際際協力とは?

JICA「背年海外協力隊って?」やドミニカ共和国

研修ビデオを通して、日本の若者やシニア海外ボラン ティアのすばらしい生き方や国際協力の取り組みから



私たちの周りに世界が見える





班学習発表

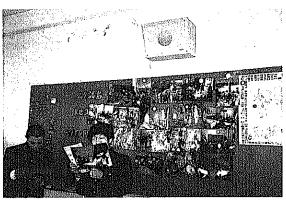
自分の生き方を考える機会にする。学年一斉に集まる 学年集会の形で行い、後に班活動でクイズに挑戦し、 感想文を書いた。優秀班にはドミニカ共和国グッズ (切手、コイン、お菓子)を贈った。

11~12時限◆ゲストティーチャーを迎えよう 13~14時限◆ともに歩もう私たちおなじ地球

実際に身近なところで研修している方を招いて、 それぞれの国の文化や大切になさっているものを知 る。また、研修の目的や、国に帰られてからの抱負 を知ることで生き方を学びたいと考えた。 2 時間と いう時間では、研修員の方の目的や抱負を理解し、 深めるところまではいかなかったが、言葉ではなく 分かり合おうという気持ちがあれば、通じ合えるこ とに気づき交流会では笑い声が体育館の中に響き、 良い刺激を受けた。



ドミニカ共和国って?

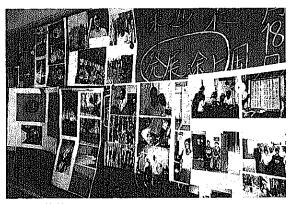


写真で世界を旅しよう

15~22時限◆私たちにできることは? 「自国を知り、他国を知る」

コース別ボランティア活動の一つ。本校では、1年間のまとめとして、総合的な学習の時間で学んだ取り組みを実践する活動を行っている。国際交流に関心を持つ25名が集まり、「自分の国のことを愛し知っていなければ、他国のこともわからない」と地元天型の誇れるところをインターネット等で調べ、外国の人向けの英語版ホームページを作成した。世界には多様な文化があり、それを尊重しあうことの大切さを確認する。生徒の反応・評価

フォトランゲージやドミニカ共和国の資料を使って の学習は、子ども達が目を輝かせ楽しく学習すること ができた。発展途上国=マイナスイメージを一掃する ことができたと思う。貧しくとも支え合い心豊かに暮 らす人の姿から、現在の日本の姿を逆に振り返ること ができた。青年海外協力隊やシニア海外ボランティア の活動は、日本人の活躍に勇気づけられ、自分の生き



ドミニカ資料



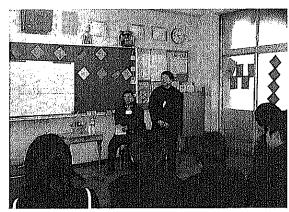
方を考えるきっかけになる。また、国際交流会では短い間ではあったが、一生懸命日本語で語ってくださる 気持ちに感動し「おなじ地球人、分かり合おう。」という気持ちが芽生えた。ボランティア活動では、それ ぞれの国が自分の国を愛し、文化を大切にしていたことを振り返り、自分たちの町天理を見つめ、外国の方に発信するホームページ作りへと発展させることができた。

をゲストに招いてともに歩んでいくような取り組みを 進めていきたい。生徒たちが、自分の生き方を探すと き、ゲストや協力隊の生き方を思い起こし、前向きな 生き方を探してくれればと思う。またこの取り組みが 1年で終わらずに、継続し発展させて取り組んでいき たい。

成果と課題

このプログラムを通して、ますます国際交流の重要 性や楽しさを感じることができた。

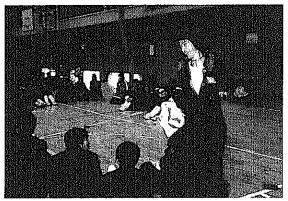
ゲストティーチャーとの交流は、身近な地元の方と 長いスタンスで取り組んだ方がお互い分かり合えて有 効ではないかと思う。本校でも在日外国人の生徒がい る。その生徒が胸を張って自国のことを語り家族の方



ゲストを招いて(考古学研究所で研修中の中国の方)



ともに歩もう私たち同じ地球 (病院で放射線医療を研修中のイランの方)



全体交流会(県庁で都市計画を研修中のブラジルの方)

|--|

1~2時限 ワークシート (1)

私たちの身のまれ	かに世界が見;	える 氏名	むなぜ、アフリカや、中南米の間の製品は日本にやってこないの7
みなで講したものの中にな 段使っているものは世界か たちの生活はいろいろな世 品を見ったり、売ったり亡お べをしてわかったこと どこの製品が多かったです	らやってきたものが! 界の国と根接に関け 互い支えあって暮ら	いっぱい 集していますね, いろいろな資源 しています。 (************************************	・技 の表現金上間(daveloping country)と充環境(advanced countries)
どこの製品が少なかったで	************* कं%?		●商北河夏ch17(The North-South Problems)
アジア ヨーロッパ オセアニア(オースト) 個民様生産とは? のグラフを見てみよう。	ラリア、ニュージーラ	南アメリカ アフリカ ンド、大平洋の関々) 公所得の高い国 (ル 四名:2888行 2009)	②57 年前の日本社ど人な様子か想像しよう。
	3 アメリカ3 日本 4	96,015 5,191	92002年、今の日本社7
	3 F77 4 747	20,637 7. 14,595	
		14,38 3 11,632	世界にはいろいろな質がおむます。かって日本が数数して何もなかったときいろいろな国の変えで
	The second second	WAR	Withingtonia state of the city of a city of the city o

	組 氏名	◎ 服装・食べ物・住まい・音楽・栄物・子ども・・日本との違いは?よく見て考えよう
この 1 枚の写真 えよう。	10回がすばらしい文化・展製を持って夢らしています。 そからざんな神経が想像できますか、自由につくって近の	仲間に伝
T	う感じ方をしていることに食づいたかな?	発表タイム ほかの班のみなにみなで想像したお話をしてください。 ②実はこの写真の間は()です! あっていますか? ②こんな女化・恩耳を持っています。
	7歳しりるしていることには、パーパーパー。 てどんなことを厳じましたか?瞳のお話が心ひかれました。	か7
2 枚目~5 枚目 2	心見てお話の終さ心想像しよう。 近で特額を作っていこ う	● のみなの発表や写真を見ての原想を違いてみよう。どの項の写真に興味を持ったかな
3		
4		
5	And the state of t	生きていますね、特殊数点はと呼ばれる場の方が、自然の方に無味ないのでは、 なあと際じます。次の時間は この質訪れたドミニカ共和国でのお話です。お楽しみに・・・

R.Dominica

②なぜ、アフリカや、中南県の頃の殷品付日本にやってこないの?

ロキョリが進い の製品をつくる方がない と教育が驚。スハない。余裕かない(生話だけで精子杯)

の発見波上度(developing country)と先進度(advanced countries) → 数30% お全20% 資源はあるかでれて発品に する技術・カかない国。

今仲かおしている国、

プフリカ、中南米、アシブな、{アメリカ、ヨーロットへ日本

→数20% 20% 資源はゆないが、工業化が はすずみ 賢易で、豊かになる {た国。

○食べ物 が不足

ひ商北岡川とは?(The North-South Problems)

先進国て発展途上国との経済格差が{ 大きいこと。

€57年前の日本はどんな様子か想像しよう。

発展途上国 ログラウンド かねたいた □授業(勉強)がない 口竹がりのくん緑

●2002 年、今の日本は7

先進国 ○豊かな国



057年前の日本はどんな様子か想像しよう。

給食がなか、たり、つきはまでららかれんのを着に PLTUE BLUE 発展途上国にったの テルドや車などはとがりかす。

02002年、今の日本は?

外国からの輸入げりりい 食べ物も、洋風のものがタタく、テレビもあるのが うぶっうにないる。率か一家に1台はある。

むなぜ、アフリカや、中海米の国の製品は日本にやってこないの2

ミエ場もあまりなくて作っているものも少ないから

◎殖項途上頭(developing country)と先通額(advanced countries)

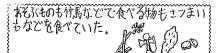
資源は豊かだが、それを かエして製品化・お工業が 未発達で、今国つくり・産業プス が進れるる

の南北問題とは7(The North-South Problems)

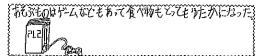
資源は少ないが工業、貿易 が個人で、豊かな国

北先進国と南発展途上国の格差が大きいこ とて南北問題

957年前の日本はどんな様子か豊像しよう。



○2002 年、今の日本は7



G57 年前の日本はどんな様子か類像しよっ。

いしを食べていた。 戦争をしていた。 なしかった。 ヨーロッパ・アメリカに支えんしてもられ

diois. コンピニとか、信がいりはいある。 ~ を対象でどうにかなったりする。 ・ ・ 数浄を知らない人か多い。

世界にはいろいろな関があります。かって日本が敦煌して何もなかったとき、いろいろな質の支えで 立ち直り、今に至います。今日本がすべきことは何でしょうか?一緒に考えていこう

発見・体験・ほっとけん

2002. 11. 29

天理市立西中学校 1 年生

社会科の授業で国際理解・異文化共生の学習に取り組んでいます。 第二弾、

写真を見て想像しよう!フォトランゲージ、写真から世界が見える.

違う国のいきいきとした写真を見て、何をしているのかを想像しました。いろいろの国の文化、まばゆい光、鮮やかな色彩、自然がいっぱいでした。そして想像もしないその国独自のくらしぶりに触れ、びっくりしました。 又、友達によっても感じ方が違うことにも気付きました。

いろいろな生き方があるんだな一素敵な文化があるんだな一 皆の感想を紹介します.

むみなの発表や写真を見ての展想を想いてみよう。 どの近の写真に興味を持ったかな

はくはべました行きれた思いました。1つの利のはりにはのテルビのか

いけどふれをいれ場があるのはいいと思いすら、男の人はあみはのをしないといけないので大字だらと思った。全は書く空の下には、カラフルな

をおの野菜がおっているそに コンドインの物の間はがあるざもしっそう

た面だなと思いました。

· 10/16-

私は パルーに行きたいと思った。質しいけど、みんな仲良人て、大人も、子供も楽しみをおかちあっていて、苦しいけど、質しいけど、それ以上に1人1人の心があたたかくて、

みなが家族のようなかんじたり、た。

私は、バングラテンコに関い末を持ちました。

同じたコロが再業になれば、一で要素になれば、

道にはるのがすいかたです。へいしは、とうからしか

すごがったです。だっていたファリカみたいこであずかだったからです。

それに、水の上でくらす人がすざかったです。

トルフの多に興味をも好にられい、たあるが多い系かがい。 家の中もキリでかったのおおいだと思える。 仏が仏教の中がわなったもりでラレンデリスはその電気がる。で 付感ががいる。

トルフのケーペット、て有るりから写真にもあった。



へいしてにきうって、生と鳥(ア)のたたかい(ア)を見てみたい。

Non-の男の人に、あみまのをホリネマキラロナニリン

マリ共和国の人によりす(2) のつくりがたをおしえてもらい

たい。ハロルーのとうからしも何かにいれて食べてみた

いいみじり、赤、黄全部で切れたり、

バングラティシュの雨はすごいて思った。道が川に なってしまうほどの量の雨があるなんて日本ではあ まり考えられない。世界にはいろいろなことがある 七思った。

クック諸島のエキ ろ、みたいのケニアの毎日、同じ食べ物を食べるというのはかわいそ注で思い起た、コモー豆はあーた、てとるでり方であるのだなと思ったこですなのによろこんでいるのがひらくりした。 おとなが 宇校で飯強 いるという所がおとづいた!

との写真にも無味をもたがバングラデシュに興味がわいた。 いっか 医者になってどの国にどれば底が起きったとしてた 治しに行さていと思いた。全部の国が豊かになってはしい。 でも、自然をこれずのはできなただけおでえてはします。



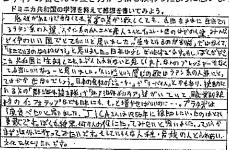
体験・発見・ほっとけん

2002, 11, 29

天理市立西中学校 1 年生

社会科の授業で国際理解・異文化共生の学習に取り組んでいます。第三弾!! ドミニカ共和国ってどんな国? この夏、わたしが訪れた素敵な国ドミニカ共和国の

様子を学びました。メレンゲのリズムに揺られながら、ラテンの明るさがみんなに伝わりましたか?出会った来敵なドミニカ・ナ、青年海外協力隊の若者、そしてシニア海外ボラ ンティアの皆さんの生き方から私も教わったように思います、皆の感想を紹介します。



11 - 11 × 121 3/ 12 1
技術も別面も経済とがも日本とりは進れででいる
र केर प्रस्ति होते हैं। होते हैं के प्रस्ति
いこみれな明るとていっもは、て人間関係は日本よりも
イイ と供った。ち 金をずせざ身のむ ひとい 日本人は いっこ
うと見習、たちがイイと思いる。ごも日本人の中には
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
したこうぜ和国のような発展に上向しましゅっぱ?
上:十. / 年 1/日 2
1 2 2 4 5 3 3 3 3 1 2 2 1 5 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
日本・スドミニケに技術も創造を教えて、ドミニケい大家
ロー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
くなっていた日本に人間関係、人ものかいもりも眠かいまと
31. 5 + + - 4 - 5 - 5 - 5 - 5 - 5 - 5 - 5 - 5 - 5
教育、大大大支育、アルコと見りたの

ドミニカ共和國の学習を終えて超想を掛いてみよう。
赤仏は、ツト国としもうものがいせでした。
それは何かいうたいと感じるからです。
(思うから)でも、ドミニカの食むも関い
て、「たのしそうた"なよ」 と 思いました。
何か、写文で、そう思ってまたことか
青耳治り十九 カ 多恭 と、シーアニ毎クトポラン
ティアの人たちは、すごりと思います。
たも 楽しそうたっと思います。
人しのかかかかりかすごいないので
うらが 乗しい です。

Litu 3/11 Fit mener 15 the	
その中でもっとも、いんしようにのニットのか、チョカトをあんめとかって	
证为人形です。	
K-7 t b' h = 11 t 1 = 0	
ニニガ人をちは、いろいろは草のははカ人かいまりに	
在账差别的MITTHO	
マニカニとがいいがミニカもびおっておもったし、トリミニカの人々	
(Fass Level 1 Trutia 113 KTIL KAZZE	
A-160	
ドミニカの人はとっても明了くてやさしくてどんけった。	Υ.
「一生」いれらけんめいにもっていててなるとか時た	
トニーカの近くのかり海によすっこく、キレイやと見れる	ę
中八ものであれずはいはんてすっても、たいないに見っても、まるたったうまりだ	i

サミー・リーサかドミニカ出身だとは思いませんでした。
びっくりしました。この人がドミニカにお金に基が
サーバック・バーマーバにのかしたけい
していることをまったくかりませんでした。17才18才
ても中国生のままなんでほくとしてませったいにあ
しりました。この子をは家族のために休まず働いている」
【を聞いてえがいなめて思ったし、等敬したいないとも思い】
しました。それに、女の子も働いているなんてすでロケッテー
しなしました。とにガく、この写得をしておどろきの連続
してひっくりしてきました。それと、信ちげ来の間にノッチ
ガきや新聞売りしていることもでいくりしました。

ドミニカの中学社の人達はパワフルは、と思った。
家計を重かけらために、彼らいているのたから、日本人とは
大強いた。 イルドーやを多くないのはなくりだった。
ラテン表染はとすも、テンポが早くて、明かり曲だりま
火男…た。私七いつか海外青年福力像や国境、独士
医師団などの 1品の隊 (こ入って、医学びどを、発展法上国
に教えに行またロッと思った。



参加動機およびプロフィール 井本 章子 📟

私は子ども達に、国際理解や異文化共生の重要性を教えながらも、実は発展途上国の現状やその人達のく らしや価値観などを知らずに机上の空論を教えているのではないだろうかと悩んでいました。そこで「自 分自身が見たり聞いたり体験したことを伝えていきたい」と考え応募しました。世界の国、その国の人の 生き方や価値観を少しでも理解し、途上国の人たちのパワーを感じ、私達が何をするべきかを考えていき たいです。視野を広げて私の心のグローバル化を図りたいと思います。この研修に参加することを通して、 子ども達に世界の人達がその国独自の努力や工夫をして歩んでいる姿や日本が何をすべきかの課題を実体 験を持って伝えられることを期待しています。学校においては、道徳や人権教育の一環として国際理解教 育への取り組みを進めてきました。非識字体験のゲームを取り入れ、文字を知ることの大切さ、それぞれ の国で文化や風習の違いはあるけれど自国の言葉や文化を大切にしていることに気付く学習や、世界には 学びたくても学べない子どもがいる現状を調べる学習へと発展させました。





責任ある生き方を問う開発教育

社会開発分野における国際協力と構成的グループエンカウンター

濱田泰輔 HAMADA TAISUKE 社会 名古屋市立若葉中学校(愛知県)
 実践教科
 社会、英語、総合的な学習の時間

 時間数
 約46時間
 対象生徒・学年 3年

 対象人数
 社会・英語・・・・・・・・・・ 1 クラス (34名)

 総合的な学習の時間・・・「国際協力コース」(20名)

カリキュラム ……

実践の目的

前任校では、これまでバングラデシュでのCBO (Community Based Organization) 支援活動の経験 を生かして、開発教育を進めてきた。そして本校に転 任。新入生を相手にバングラデシュのフォトランゲー ジを行ったときのことである。サッカーボールをもっ た現地の子どもたちの写真(写真※1)をスクリーン に提示すると、「あいつら裸足だがや、貧乏くせー!」 軽蔑と嘲笑が交錯した声々…。教師としてでなく、人 として胸が痛くなった。授業に対する真剣さ以前に、 「心の耕し」が不足していた。日常の学校生活でも言 葉の暴力が目立っていたこの学年は、小学校時代にい わゆる学級崩壊を経験していた。以後、開発教育と並 行し、構成的グループエンカウンター(資料※2)の エクササイズをタイムリーに取り入れてきた。身近な 人たちと心が通う望ましい人間関係を築くこと、自ら 責任ある生き方を問い続けることからすべてが始まる と考えたからである。

○「命」を根底に、BHN (Basic Human Needs) と社会開発に焦点化

貧困とは、単にものやお金がないことではない。社会開発を進めるためには、教育を受け、情報にアクセスし、生活空間を確保し、社会関係を回復し、収入を向上させていく必要がある。(フリードマンの貧困モデル)昨年度の総合学習では、「アフガニスタン難民」について調査・発表した生徒がいた。そこで今年度は、

「命」をテーマとし、具体的には、「難民」を生きていくために最低限必要なもの(BHN)を考えるキーワードとし、バングラデシュやドミニカ共和国での経験を活かしながら、極限状況とBHN、そして社会開発に焦点をおいた授業実践をめざした。

○いかにイメージできるか、いかに意識(awareness) できるか

そこで問題になるのは、世界と自分とのつながり、 BHNや生きていくための極限状況をいかにイメージ し、意識できるかということである。そこで、以下の 4点に重点をおいた。

- ・「心の耕し」としての構成的グループエンカウンターの継続(本紙上では報告を省略)
- ・楽しく学び合う参加型学習の導入(気付き・考え・ 学び合う。そして行動へ)
- ・身近な人間関係・題材から世界へと広がりをもたせ る指導過程
- ・イメージを数値や相関関係で補強(5歳未満児死亡率(U5MR)の順位と識字率等各要素との相関関係など)

○国際協力の現場の現実、「責任ある生き方」を問い続けるために

国際協力を「かっこいい」というイメージだけでとらえている生徒も多い。人と人が関わり合う現場の苦労や現実から、介入と協力、国益としてのODAについて考えを深化させたい。また、国際協力機関訪問、サーモンキャンペーン、ユニセフ募金など直に人と会い、社会との接点を経験すること、さらに青年海外協力隊(以下JOCV)やシニアボランティアという生き



R.Dominica

方を知ることによって、生徒自身が「自分や社会や未 来に対して責任ある生き方」を問い続けるきっかけと したい。

BHN(人間の基本的ニーズ)

個々の家庭に必要なもの(衣食住)と、公共社会的サービス(飲料水、公共輸送、 教育、医療など)といった、人間が生きていく上で最低限必要とするものを指す。

○啓発活動

文化祭展示、エッセイコンテスト、校内外での実践 報告、各種募金活動、学年通信などを通じ、生徒だけ でなく同僚や保護者、地域の方々にも、人類共通の課 題についての啓発活動を継続した。

授業の構成

(圖・・・総合的な学習の時間「国際協力コース」での実践/□・・・社会、英語での実践)

投業の構成	(圏・・・総合的な学習の時間 国際協力コース」で	の美践/□…在会、央語での美践)
時限・テーマ・締めい	方法。依容	(电用效应)
● 図 3 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	4つのコースを設け、そのひとつとして「国際協力 コース」を設定した。事前学習後、JICA、日本フォスタープラン協会、ユニセフハウスを訪問し、国際協力の現場について理解を深める。	・ビデオ教材「JICAくんのよ うこそ日本へ!」JICAのパ ンフレットなど
②原形 □バングラデシュクイズ 写真※3	英語科とのクロスカリキュラムとして、英語表現を使ったバングラデシュクイズを実施した。「バングラデシュ=貧しい」というだけの先入観を解きほぐしこの国の様々な面について理解を深める。	・ブレゼンデータ(バングラデ シュについての英語クイズ) ・フォトランゲージなど
□JICAエッセイコンテスト 2002	夏季休業中の選択課題 (準特選・中部国際センター所長賞、学校賞受賞)	
(10) 図文化祭での「国際協力コーナー」の開設 テー」の開設 写真※4	ドミニカ共和国写真展と生活用品を展示するととも に国際協力の現場を紹介する。ユニセフのバネル展 示、スライドショーの上映(ドミニカ共和国)、地 球クイズの実施(「国際協力コース」選択生徒制作)、 生徒、同僚、地域の方々に対する啓発活動をねらい とする。	 ・A3展示写真50枚 ・プレゼンデータ ・ドミニカ共和国の生活用品 (青年海外協力協会ワールドボックス) ・ユニセフパネル30枚
(15日間) 口ドミニカ共和国を知ろう	ドミニカ共和国について、クイズも交えて簡単に紹 介する。(歴史・地理・文化など)	・プレゼンデータ ・ドミニカ共和国の生活用品、 音楽CD、地図
● 団芸型 ■世界と日本のつながり (新聞と広告から)写真※5	グループごとに広告に掲載された食品の輸入相手国 名や、新聞記事に出てきた国名を白地図に記入し、 そこから分かることについて発表する。	· 新聞 · 広告(食料品) · 白地図(世界)
(12) (2015) 関 開発途上国をデータで知る 写真※6	U5MR順位を指標とし、開発途上国と先進国との 社会開発分野での格差、U5MRと水・衛生施設・ 女性の男性に対する識字率・就学率などとの相関関 係についてグラフ化する。ここでは、データから現 状を読み取り、相関関係を予測・調査・発表する。	「世界子供白醬2001」(ユ ニセフ) 模造紙
● サーモンキャンペーン&中 部国際センター訪問 写真※7	総合学習「国際協力コース」選択生徒20名でJICA 中部国際センターを訪問する。エジプトで理学療法 士として活躍されたJOCVからお話を聞く。現場の 様子とJOCVの生き様に触れることは實重な体験。	サーモンキャンペーンを中部 国際センターで実施。ねらい と内容について事前の打ち合 わせが必要。
②加売 □俺には関係ないがや 写真※8	責任ある生き方に欠ける学校生活の具体的場面をイメージし、自己と向き合う。さらに、自分と世界、日本と世界との関係を意識化するためにこれまでの活動で調べたデータや被援助国だった頃の日本の様子を提示した後、紛争や難民の写真と阪神大震災で倒壊した家屋・緊急援助隊の活躍などを提示する。「つながり」「人間にとっての極限状況」「責任ある生き方」というキーワードにつなげる。	・板書が残った黒板、ヤカンが 教卓に残ったままの昼休みの 教室の映像。 ・世界と日本のつながりを調べ た白地図(※5) ・ユニセフやUNHCRの写真 ・阪神淡路大震災の写真
(2:※33/3/3) □欲しいもの必要なもの □難民のカバン 写真※9	生徒に欲しいものを4つ挙げさせる。その後、参加型学習「難民のカバン」を実施する。振り返りの場面では、自分が欲しいものと難民が必要としているものを比べる。極限状況の人々にとって必要なものは何かを考え、自分たちのライフスタイルを振り返る。(BHNや社会開発の学習につなげる。)	・ビデオ教材「難民になるって どういうこと?」(UNHCR) ・アフガン難民についての生徒 のプレゼンデータ ・「難民のカバン」のアクティ ビティの用意

時限・テーマッを珍い	万法 (内容	(西籍政策)
□□SMRとBHN □ORSと教育・識字 写真※10	前時の振り返りを基に「マスローの欲求」とBHNについて説明する。その後、グループを国にたとえ、U5MRを低下させるためには、どうしたらいいか話し合い発表し合う。教師のバングラデシュでの体験談、生徒が実際にORS(経口補水塩)を飲む体験を通じ、教育・識字とエンパワーメントの大切さに気付く。	・「世界子供白書2001」・模造紙・バングラデシュ農村部での支援活動の写真・ORS (水・砂糖・塩)
(アングランドミニカ共和国の社会開発	ドミニカ共和国の組写真からストーリーを作り発表し合う。フォトランゲージ(1)(2) ①都市と農村の様子、グローバリゼーション ②我が子と登校する女子生徒、働く生徒たち ③15歳で出産した女性と社会背景 低年齢結婚の母子に及ぼす影響と社会背景について グループごとに意見をまとめ発表する。さらに、資料を配布し考えを深化し、振り返りをする。	・組写真(ドミニカ共和国) ・低年齢結婚についての資料 (ユニセフ) ・女性識字率と合計特殊出産率 との相関関係(ユニセフ) ・ドミニカ共和国JOCVからの メール
(€75/2/16計) ■ユニセフ街頭募金活動「ハンド・イン・ハンド」参加 写真※12	「国際協力コース」を選択した生徒の希望もあり、 この活動に参加した。社会との接点で確かな達成感 と成就感を感じることができた。前後の活動が大切。	・募金箱、ポスターや掲示物の 製作と準備 ・活動に関する手続き
(22) ロドミニカ共和国の社会開発 I ・国際協力の現場 ・介入が協力か 写真※13	ドミニカ共和国の組写真からストーリー作りをして発表し合う。フォトランゲージ(3) ④JOCVの活躍にもかかわらず医療現場の注射針やゴミの処理がずさんな理由について考え、国際協力の現場の苦労と現実などについても知る。理解し合うことやコミュニケーションの大切さは、日常生活でも大切なことに気付く。	・組写真(ドミニカ共和国)
(名) □4つのコーナー	「中学生が携帯電話をもっていいか」といった身近な話題から、資料を読み込みイラク攻撃についてまで話題を広げた。自分の意見をもちそれを表現すること、友達の意見に耳を自分の意見を再考することなど、ソーシャルスキルの向上をねらう。	4つのコーナーに必要な用意
《Y. ※(F) □貿易ゲーム	公民的分野の南北問題を扱う単元で、参加型学習 「貿易ゲーム」を実施し理解を深める。	貿易ゲーム
②○日刊刊 □絵本「夢につばさを」朗読 □国際協力という生き方	「夢につばさを」を朗読する。そして、ドミニカ共和国やマラウイで、JOCVやシニアボランティア(SV)として活躍する方々の活動の様子や彼らの志望動機について紹介する。(マラウイのJOCVは教え子)国際協力という生き方に触れ、「費任ある生き方」を問い続けるきっかけとしたい。そして、卒業間近の生徒たちにエールを送る。	・JOCV、SVで活躍する人々 の写真とインタビユー資料 ・絵本「夢につばさを」フォス タープラン協会(スクリーン に映写して朗読)

社会13時間、英語1時間、総合学習20時間、JICA訪問4時間、ユニセフ募金8時間

(実践については、一部のみ掲載)

3年生になると、これまで継続してきた構成的グループエンカウンターやコミュニケーションの力を高める活動の成果が、「心の耕し」として現れてきたようだ。活動全般を通して、生徒は、知識詰め込み型授業では見せない生き生きとした表情で、内容の濃い時間を

過ごした。しかし、こちらが内容を欲張りすぎて時間 配分がうまくいかず、大切な振り返りの時間を十分確 保できないこともしばしばあった。

また、評価方法が議論されているが、今回は振り返りカードを活用した。毎時間後、生徒全員のカードにコメントを入れる作業は、正直大変だった。生徒は、クリアーファイルを用意し、この自己評価カードと各



種資料をファイリングした。生徒自身が、学習の足跡を振り返ることができるようにするためである。(ポートフォリオといったおおげさなものではない。)

17~18時限◈「世界と日本のつながり」

[ลริน]

日本と世界のつながりを身近な素材から考える。相互依存の関係を意識する。

[手順]

- 4~6名のグループをつくる。
- ② 2~3日分の新聞を持ち寄り、グループごとに新聞記事にでてきた国名を模造紙の白地図に色付けし、分かったこと、感じたことを発表し合う。
- ③ 同様に、新聞の折り込み広告に出てきた輸入食品 の輸入先国名を地図に色付けし、分かったこと、感 じたことを発表し合う。

[振り返り] (・生徒/◇教師)

- ・協力して楽しく活動しながら、日本と世界のつながりを あらためて感じた。
- 環太平洋地域からの情報や輸入食品が多く、アフリカや 中南米の情報が少ない。
- ・たくさんの国名を見つけることができた。アメリカや東 アシアの情報が多い。
- ・日々の食材の多くをこれほど海外に依存しているとは思わなかった。
- ◇生徒にとって、テーマや作業内容は分かりやすく、どんな結果が出るか楽しみな様子だった。新聞や広告を調べる役割、出てきた国名を地図帳で調べる役割、それを世界地図に書き込んでいく役割を自分たちで決め、コミュニケーションを図りながら、意欲的に取り組む姿が見られた。
- ◇このような活動は、フードカリキュラムと同様、開発教育・グローバル教育の導入で使われることが多い。身近な生活と世界のつながりを意識することができる活動のひとつである。資料として「資源輸入依存度」「食料依存度」などを使用した。
- ◇記事の内容で分類する方法もあるが、短時間で2つの作業を行いたかったので、国名と位置を確認するにとどめた。

27時限◆「俺には関係ないがや」 (写真※8)

[ねらい]

日常生活の場面で、無責任・無関心でいる自分に気 付くことから広がりをもたせ、周囲の人々や世界との 「つながり」「責任ある生き方」を意識するきっかけを つかむ。

手順

- ① [目をつぶり教師の語りを聞く] 「昼休みの片づいていない教室の情景をイメージしよう。 黒板は消されていない、ミルク瓶・やかんが返却されていない私たちの教室」 そして、「俺、関係ないがや・・・」と一言。さらに、無責任な言動が交錯する日常生活の場面をいくつかイメージさせ、最後に、「俺、関係ないがや」とゆっくり語る。(人物が限定されることについては、扱わないように配慮する。)
- ② [黙って目を開け、次の映像やデータを熟視し、 責任とつながりを考える]
 - ・昼休みの教室 (黒板が消されていない、ミルク 瓶・やかんが返却されていない教室)
 - ・生徒が作成した日本と世界のつながりを示した各種世界地図(**5)
 - ・日本の戦後復興の写真(ユニセフの援助を受けて いる子どもたち)
 - ・難民の写真→阪神・淡路大震災の写真(生徒の実 家が崩壊した写真等)
- ③ [黙って感想を書く] → [感想を共有する]

[振り返り] (・生徒/◇教師)

- ・身が引き締まった。いろんなことに無責任でいる自分に どきどきした。
- 何もできない自分じゃなくて、なにもしないでいる自分がいると思った。
- ・分かるけど、正義ぶってるって思われたくない自分もいる…。
- ・自分の視野がいかに狭く、わがままだということ。頭にが一んと響いた。そして、自分が蜘蛛の巣のような関係で結ばれた世界の中で生かされているような気分になった。国際協力とは言うけど、周囲への思いやりや責任感がなければ、かっこいいことばだけに終わってしまうと思った。
- ◇このアクティビティは、静岡で開催された開発教育研修会でヒントを得たものである。自分と世界との関係だけでなく、周囲の人たちとの「つながり」を意識し広げていけたらと思った。再現性は低い実践ではあるが、少なくとも本校の生徒たちにとって、「つながり」と「責任」を意識する意味で、強いインパクトがあったようだ。振り返りの場面で、どの生徒も黙々と鉛筆を走らせていたことが印象的である。

28~29時限◆「欲しいもの、必要なもの」 「難民のカバン」 (写真※9)

[ねらい]

極限状況の難民にとって必要なものは何かを疑似体 験し、難民の理解を通して、欲しいものと必要なもの のちがいから私たちのライフスタイルを考え直すきっ かけとする。

[手順]

- 4~6名のグループをつくる。
- ② 「今、欲しいものは?」という問いかけるととも に教師自ら欲しいものを黒板にいくつか書く。その 後、生徒も4つ書き、そのカードを自分のポケット にしまう。
- ③ 『難民になるってどういうこと?』(VTR/UNHCR)の導入部分を視聴する。
- ④ 昨年度の総合学習「国際理解コース」で発表した 生徒のプレゼン (アフガン難民) や難民の写真から、 分かることをグループで話し合う。(フォトランゲ ージ)
- ⑤ 『難民のかばん』のアクティビティを行う。
 - ・

 ・

 嫌民として逃げる状況を想定し、15の持ちものを

 グループ毎に話し合い決める。
 - ・その後、国境の検問を想定し、持ち物を4つに絞らなくてはならない状況を設定する。グループ毎に短時間で話し合い4つの品目を決定する。
 - ・各グループごとに、最後に残った品目とその理由 について発表し合う。
- ⑥ 生徒の発表を基に、食料や水の必要量と重さを実際に体験する。難民キャンプの様子、UNHCRの活動について簡単に説明を聞く。
- ① ①で書いたカードをポケットから取り出し、活動 後に感じたこと考えたことを振り返りシートに記入 する。最後にグループ内で気付きや感想を共有する。

[振り返り] (・生徒∕◇教師)

- ・欲しいものと必要なものは違うことが分かった。本だけ では分からない難民の様子や気持ちが少し分かったよう な気がする。今、同じ時を過ごしている難民の存在が自 分に近くなった。
- ・今まで、UNHCRや緒方貞子さんのことさえ知らなかっ

- た。難民は、家族や財産だけでなく、生きる希望を奪われた人たちだ。私たちとは次元が違う。何もできずのほほんと暮らしている自分の胸が締めつけられる思いがした。でも、一方で、難民でなくてよかったという自分もいる複雑な気持ちです。
- ・最後に、難民の持ち物と自分の欲しいものを比べたとき、何とも言えない恥ずかしい思いがした。またこの授業で、知らなかったこと、知っていても意識できていなかったことを突きつけられたようだった。
- ・私たちは、食料と水を持ち物として残したが、家族が生き延びるための量を実際に運び出すことは難しいことを 知った。想像と現実は大きく違うことを知った。
- ◇この活動も研修で経験したワークショップをアレンジしたものである。情報量が多く展開がはやい活動にも関わらず、生徒はぐんぐ引き込まれていった。最後が山場である。生徒の欲しいものは、「お金、犬、携帯電話、大きな家、自分の部屋、ノートパソコン、服、チョレート、ゲーム、デジカメ、コミック本、恋人・・」難民のカバンに残ったものは、「水、保存食料、薬、家族の写真など・・・」生徒は、黙々と振り返りカードに自分の気付きや感想を書き込んでいった。それだけに、もう少り振り返りの時間を確保し共有したかった。(参加型学習において、ただ楽しいだけの活動に終わらないよう振り返りを重視したい。また、展開によっては、教師がうまくまとめすぎないことも重要である。一方的な気付きの強制ではなく、一人一人の気付きを大切にしたい。)
- ◇相変わらず「私は日本に生まれてよかった」「かわいそう」というだけの感想に止まる生徒もいた。

30~31時限◈「U5MRとBHN」「ORSと 教育」

(写真※10)

[ねらい]

- ・極限状況の難民にとって必要なものは何かということについて振り返り、「マスローの欲求」を参考に して再考する。
- ・その中で、生理的欲求、安全の欲求が満たされていない人たちが世界には多くいるということを認識し、ユニセフが指標としているU5MRを低下させるためにはどうしたらいいかグループごとに発表し合う。保健医療だけでなく、教育や水など様々な要素の関連性に気付かせる。(包括的な社会開発の必要性)
- ・バングラデシュでのORS普及と井戸づくりの話を し、実際にORSを体験する。そこから、教育の必要



性、勉強することが自分や家族を守ることであること、その機会を提供することが大切であることを考える。そして再度、貧困の悪循環を考える。

・次の「ドミニカ共和国の社会開発の現場はどうなっ ているのか」に続ける。

[手順A]「U5MRとBHN」

- ① 4~6名のグループをつくる。
- ② 「マスローの欲求の5段階」を提示し、「自分たちの欲しいもの」と「極限状況の人たちが求めているもの」との違いから、人間が生きる上での根源的な欲求を満たすことができない人々が多く存在することを再確認する。
- ③ U5MRを知る。(1000人あたり5歳未満児の死亡率) ユニセフでは、U5MRを子どもの福祉を図る重要な指標のひとつとしている。その理由に気付くために、U5MRを低下させるためにはどうしたらいいか、国にみたてたグループごとに話し合い、代表が外務大臣として発表し、気付きや感想を共有する。そして包括的な社会開発の重要性を認識する。

【手順B】「教育とORS」

- ① ORSを配り飲む。そして、何からできているか何のための飲料か話し合い発表する。
- ② 開発途上国の乳幼児の死亡原因の上位を示し、 下痢が第2位であることをクイズ形式で知る。バン グラデシュの経験として、母親のORSの知識不足か ら、脱水症状の乳幼児を救えなかった話をし、教育 は、自分と家族を守ることでもあるということを理 解する。
- ※ORS…「経口補水塩」。塩と砂糖(ブドウ糖)から成る。下痢による脱水症状を予防・治療する時に使用する。
- ※ボーイスカウト日本連盟は、バングラデシュにおけるORT(経口 補水療法)プロジェクトを支援するとともに、自国での開発教育 活動の推進を行っている。

[振り返り] (・生徒/◇教師)

- ・U5MRを低下させるには、「貧困の連鎖」を解きほぐす ことが必要だと思う。経済開発も必要だが、社会開発を 優先しなくてはならない場合もあると思う。
- ・「命」を救うためには、病院を建て医師を増やすだけで はなく、女性や子どもが教育を受けられるようにする政 策が必要だ。
- ·ORSのような簡単なもので、乳幼児の死を防ぐことができることを知った。これを知らないばかりに、大切な家

- 族を失うという重大な結果につながるとは…。 識字や教育の大切さを知った。
- ・仮想国としてではなく、私自身ができることは何かと考 えていた。
- ◇ORSの場面では、「命」との関わりについて真剣に話し 合うことができた。
- ◇以前行った「貧困の悪循環」との関連を思い出す生徒も 多かったようだ。
- ◇ただ援助を待っているだけでいいのだろうかといった視点や、緊急援助と自立支援の援助には違いがあることに気付いた生徒もいた。
- ◇開発についてのアクティビティとして「ランキング」を 行ってもよかった。

32~33時限◆「ドミニカ共和国の社会開発」」

(写真※11)

■「都市と農村」フォトランゲージ(1) [ねらい]

サントドミンゴと農村部の写真から、ドミニカ共和国の首都の様子、都市部と農村部の格差について気付く。南北問題だけでなく、南南問題についても触れる。 「手順

- 4~6名のグループをつくる。
- ② 組写真 (a~d) から、グループごとにストーリーをつくり発表する。
- ③ 発表後、実際の状況を説明し、どんなところに先 入観が存在していたか、発見したことは何かなどに ついて話し合う。

[振り返り] (・生徒/◇教師)

- ・U5MRで調べたように、開発途上国でも中位から上位に あたるドミニカ共和国の都市部の様子は、結構近代的だ。 しかし、農村部では、テレビや電話の普及していないス ラムも多いらしく、日本に比べて、その格差の大きさに 難いた。
- ・中米は、陽射しが強くて、人々が陽気というイメージしかなかった。それに、ドミニカ共和国の正確な位置も知らなかった。新しい地球の仲間を知ったようでうれしい。もっといろいろな国について知りたい。
- ・ケンタッキーフライドチキンなどのファーストフードショップがある。日本車も走っていて、アメリカをはじめとする近隣諸国とのつながりがあり、とくにアメリカの影響を受けていることがよく分かった。(グローバリゼーション)
- ・発展しているとか貧しいというそれだけで見るのではなく、どうしてかということを考えることも大切だと感じ

た。それから、だれだって悩みがあるとは思うけど、私たちよりずっとたくましそうに見えた。

- ◇生徒は、ドミニカ共和国についてあまり知識をもっていなかった。開発途上国に対する先入観からか、比較的発展したサントドミンゴ市内の様子に驚いていた。
- ◇グローバリゼーションを感じ、都市部と農村部の経済格差を予想する生徒も多かった。しかし同時に、子ども達の笑顔とたくましさにも興味を感じていた。生徒の予備知識が少ないという利点を生かして、もう少し小出しに情報を与え、ドミニカ共和国にゆっくり入っていく方法もあったのではと思う。

■「同世代の生徒たち/低年齢結婚、文化かジェンダーか?」フォトランゲージ(2)

[ねらい]

授業風景や低年齢結婚に関する資料や写真から発展させ、ドミニカ共和国の同年代の仲間の教育を取り巻く生活環境や文化、ジェンダーについて考える。

[手 順]

- ① 4~6名のグループをつくる。
- ② 写真(e)を配布し、ストーリーをつくる。
 - ・生徒の予想例:母親が子どもをつれて幼稚園に授業参観に来ている?
 - ・現実…女性は生徒。生徒が子どもを連れて登校している。
 - → 女性の地位、低年齢結婚、エイズ、教育など に展開。
- ③ 写真(f)を追加配布して、続きのストーリーを つくり発表する。
 - ・生徒の予想例:大部分が男子生徒なのは工業専攻 クラスだから?
 - ・現実…夏休みの追試の様子。
 - → なぜ男子生徒が大部分を占めているのか?
 - → 働いているため授業について行くのが大変。 教育の機会などに展開。
- ④ 低年齢結婚の問題点を追加資料 [資料1~3] と 写真(g・h)を基に内容を深める。さらに各自で、 考えたこと、気付いたことについてまとめ、グルー プで話し合い代表者が発表する。

[資料 1] … 「JOCVからのメール」(ドミニカ共和国・ソーシャルワーカー)

[資料2] …「早すぎる結婚の原因・背は・早婚がもたらす影響」 [資料3] …「18歳未満で結婚する女の子の割合」「女性の識字率と 合計特殊出産率の相関関係」(資料1のみ掲載)。

[振り返り] (・生徒/◇教師)

- ・男性優位社会で女性が犠牲になっているようだが、本人 たちは幸せなのか。あきらめているのか。しかし、先進 国の文化を押しつけることが望ましいことか…
- ・女性の地位というよりも、受け入れる男性側の教育をしっかりしないとこの悪い習慣は続くと思う。日本だって、 時代と共に女性の地位が向上した。
- ・働かないと食べていけないとなることは分かる。しかし、 どうやって教育を受けられる時間と場所を保障するのか 難しい。政府はどう思っているのか。この点について、 日本は協力できないのか…。
- ・若い母親が多いのは、「そういう文化だから仕方がない」 という言葉では片づけることができないと思う。女性の 人権が伝統的文化を理由に侵害されているのではないか。 長い時間をかけて、一人一人の命や人権の大切さを説明 すればいいと思う。
- ・エイスの問題があるというが、アフリカの一部の国では、 薬が高くて入手できないという話を聞いた。ドミニカ共 和国はどうなのか。また予防のための教育、母親への教 育も大切だと思う。弱い人たちが犠牲にならないように 協力すべきだ。
- ◇実践の前半では、低年齢で結婚することの弊害を経済的 責任能力という観点だけでとらえていた生徒が多かった が、資料によって、健康面の問題や、「マチスモ文化」 などに視点が広がった。よい文化とか悪い文化があるの か?とか、西欧的民主主義を現地の人たちが理解できな い状態で、押しつけることは「介入なのか協力なのか?」 といった視点にまで考えを深める生徒もいた。国際協力 の難しい問題である。

34~41時限令「ユニセフ街頭募金参加」 (Hand in Hand) (写真※12)

総合学習「国際協力コース」参加生徒(約20人)から社会開発分野での国際協力がしたいという希望があり、12月23日、ユニセフ街頭募金に参加した。開発教育を積み重ねてきた生徒たちは、活動の意義をよく理解し、準備の段階から意欲的に活動し、自分の言葉で地域の方々に訴えた。学年通信、全校集会、地域の連絡協議会、団地の掲示板などを利用し、校内外での啓発活動も行った。「エッセイコンテスト」で準特選を受賞した本校生徒の作品を印刷して配布し、自分た





ちの考えを社会に発信した。社会との接点をもち、彼らのエネルギーを行動というかたちで具体化できたこと、その成功体験は貴重である。しかし、開発教育抜きで、単発的な募金だけで終わることには反対である。(スカウト活動における募金活動にも開発教育の必要性を感じた。)

42時限◈「ドミニカ共和国の社会開発Ⅱ」

(写真※13)

■「国際協力の現場、介入か協力か」フォトランゲージ(3)

[ねらい]

青年海外協力隊(JOCV)の鈴木さん(看護師)の 活動から国際協力の現場の苦労と生き様を知る。協力 と開発のちがい、文化への影響を考える。(押しつけ は協力ではないこと)

[手順]

- ① 4~6名のグループをつくる。
- ② グループ毎に4枚の写真(j・k・l・m)をもと にしてストーリーをつくり発表する。

j…鈴木さんの笑顔、k…放置される注射針、 l…ユニセフの注射針回収ボックス m…母子手帳代わりの予防接種記録カード

- ③ ストーリーについて解説する。
 - → 青年海外協力隊の鈴木さんの奮闘にもかかわらず、どうして注射針の後始末が改善されないのか考え発表する。
 - → 国際協力の難しさ(文化への介入か協力か)、 現地の看護師のプライド、カウンターパート の理解と協力の必要性…
 - → 時間をかけて理解し合うことやコミュニケー ションの大切さなど
- ① 活動の最後に、「このようなこととよく似たことが私達の身近な生活にあるのではないだろうか」と問いかけ、グループごとに話し合い気付きを共有する。

[振り返り] (・生徒/◇教師)

・奮闘している(青年海外協力隊)の鈴木さんは、生き生

きとしている。

- ・青年海外協力隊はかっこいいと思っていた。外国に行きたいと思っている自分の気持ちは変わらないが、まだまだ考えたり勉強しなくてはならないことがたくさんありそうだ。専門性の実力と温かい気持ちがないと、世界に通用しないと感じた。
- ・母子手帳など日本でうまくいったことが役立つ可能性があると思う。
- ・国際協力の難しさを知った。相手の文化、プライド、嫉妬などの影響を受けるなんて想像できなかった。与えるだけでなく、一緒に考えようとする気持ちが大切だ。
- ・コミュニケーションを図ること、理解し合うことは難しいこと。しかし、国際協力の場だけでなく、学校生活や家庭でもとても大切なことだと思う。これまで世界について学んできたが、「自分が周囲に何をするか」ということが最も大切な気がした。
- ◇国際協力の現場を具体的に知るうえで、重要な活動であった。「熱心に活動する青年海外協力隊の鈴木さんの指導が、現地の看護師たちに浸透しない理由は何だろう」という問いかけに、生徒たちはなかなか答えを見つけ出せなかった。国際協力の現場は、人と人、文化と文化の接点である。協力は一方的なものではなく、理解し合うことから始まるという大切な部分に大きく頷く生徒たちの姿がこの活動の成果である。
- ◇最後に、身近な生活に戻ってくることを大切にした。時間をかけて理解し合うことやコミュニケーションの大切さについては、国際協力の現場だけに必要なことではない。日常の私たちの生活にとっても大切なことである。 "Think Globally, Act Locally"

成果と課題 ……………

・毎年2学期には、総合学習での「コース別学習」を 設定している。私は、「国際理解」とか「国際協力」 という講座を開講してきた。これらの講座を希望す る生徒の意欲はとても高く、私が引っ張られる立場 であった。試行錯誤しながら、彼らと学び合うこと ができたことに心から感謝する。実践の内容は、私 自身のバングラデシュやドミニカ共和国での経験を 素材にしたり、「まずはやってみよう」ということ で、開発教育協会(DEAR)や国際理解教育センタ ー(ERIC)、ユニセフなどの開発教育実践例をアレ ンジしたものが中心であった。今後は、「ねらいと 願い」を明確にし、長期的ビジョンをもち、オリジ ナル素材での実践にも挑戦したい。

- ・教科学習(社会科・英語科)で、「人類共通の課題」 の基礎的な部分を扱い、意欲ある生徒にはコース別 学習で、学びをより深化させたところ、コース別学 習で学びを深めた生徒たちが、教科学習などで牽引 役をつとめてくれた。特に、教科学習に参加型学習 を取り入れた場面や、文化祭で多くの生徒に率先し て世界の現状を説明する場面ではそれが顕著だっ た。学びが他の生徒に影響を与えているという確か な手応えを感じた。
- ・参加型学習は、その手法の斬新さから注目されてきた。しかし一方で、ファシリテーターとしての力量が不足していると、楽しいゲーム、気付きの強制に終わることもある。今後は、ファシリテーターとしての力量を向上させ、充実してきた外部リソースも大いに活用していきたい。
- ・大切なことは、『責任ある生き方を問い続けること』 ではないだろうか。自分、家族、友人、学級、学校、

地域、国家、地球、そして未来に対して対しての責任である。それを学ぶヒントは、日常生活にたくさんあるはずである。

・濃厚なドミニカ共和国での研修後、トランジットで一晩限りのニューヨークに降り立った。エンパイヤステートビルの屋上から眺める夜景は、文句なしに綺麗であった。自由の女神を遠く臨みながら、不思議な感覚に襲われた。つい数時間前までは、すてきな笑顔としがらみいっぱいのコミュニティーに生きる人たちが住むドミニカ共和国の路地裏にいた自分。今は、人類の繁栄の頂点ともいえる場所にいる。『成長の限界』から30年が経過した。「いったい人類はどちらへ向かっているのだろうか…」

貴重な経験の機会と個性的ですばらしい先生方とのネットワークを与えていただき心から感謝します。

【写真編】 ☆ JICA関連の報告書における本校生徒の肖像使用については承諾を得ていますが、許可なく他への転載はご遠慮ください。

※1 バングラデシュでの経験と新入生に提示した写真





(写真左) 開発教育の必要性を感じたパン グラデシュでの体験

(写真右) この写真を見せたとたん、生徒から冷ややかな声がとんだ…

※2 構成的グループ・エンカウンター(SGE)

ファシリテーターの指示した課題をグループで行い、そのときの気持ちを率直に語り合う「心と心のキャッチボール」を通して、徐々にエンカウンター体験を深めていくものである。自己理解や他者理解、自己主張、信頼体験、感受性の促進を達成する集中的なグループ体験である。構成的グループエンカウンターは、人間関係づくりに関して理論的背景をもっており、教育現場の要求に対応できるエクササイズを豊富にもつ。ただし、短時間の授業では、参加者全員の深いエンカウンター体験は難しく、教師の力量も必要である。SGEは、開発教育とも共通した部分をもち、「治療的な教育相談」というより「開発的な教育相談」の手法の一つと言える。注意:今回の実践報告では、SGEについての報告は割愛した。

参考: 『エンカウンターで学級が変わる 小学校編1~3 中学校編1~3 高等学校編』 國分康孝監修(図書文化)、「エンカウンター」 国分康隆 著(誠信書房)など



※3 9時限 バングラデシュクイズ (英語科と社会科のクロスカリキュラム)



学校事情から、総合学習や選択教科の中で継続して開発教育を進めることが難しかったら、学級活動や従来の教科学習の中で試みることから始めてみる。同僚とコミュニケーションをとり、ティーム・ティーチング(T・T)やクロスカリキュラムを実践していくと校内にゆっくりと、人類共通の課題を扱うことの必要性が認知されていく。

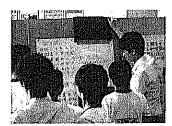
※4 10~15時限 文化祭での「国際協力コーナー」展示会場を開設



ワールドボックス(青年海外協力協会)の活用



写真展はなかなか好評だった

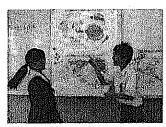


地球クイズ (解説しているのは3年生)

※5 17~18時限 世界と日本のつながり



3年生ともなるとグループワークも スムーズに



国際協力コースを選択する生徒はい つも元気いっぱい



2~3日分の新聞で50ヶ国以上の 国名があがった

※6 19~20時限 開発途上国をデータで知る





どのグラフも共通して総軸にU5MRの世界順位をとり、水、衛生施設、女性の男性に対する識字率、1年生が5年生まで在籍する就学率などとの相関関係調べ発表した。(U5MRの上位と下位の各30ヶ国について)都市と農村という比較ができなかったことが反省点である。

※7 21~26時限 サーモンキャンペーン・JICA中部国際センター訪問



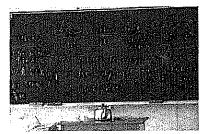
海外からの研修員と熱心にコミュニ ケーションをはかる(食堂にて)



自分の将来や生き方を問うきっかけ になった生徒もいた。

修学旅行で様々な国際協力機関を訪問したが、そこから新たな疑問や考えをもう一度JOCV経験者にぶつけてみるということができた。サーモンキャンペーンの機会に、教師も一緒になって、参加型学習を行うのもよい。

※8 27時限 「俺、関係ないがや」

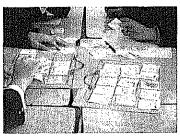


見ていてもだれも片づけない昼休みの教室



阪神大震災で倒壊した生徒の実家

※9 28~29時限 「欲しいもの・必要なもの」「難民のカバン」



「カバンに必要なものを詰め込め! 時間がないぞ!」



簡単で楽しいアクティピティだがた くさんのことを教えてくれる



大切にしたい振り返りの時間

※10 30~31時限 U5MRとBHN、ORSと教育



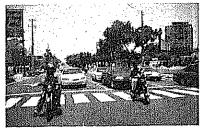


(写真左) U5MRを低下させるためにはどうしたらいいか国の方針を熱心に発表する。

(写真右) ORSを実際に経験する。



※11 32~33時限 ドミニカ共和国の社会開発 I (一部抜粋)







(写真8)

(写真b)

(写真a) …日本車が目立つサントドミンゴ市内 (写真b) …サントドミンゴ市内のファーストフード店

(写真c) …ビーチの食堂で靴磨きをする少年

(写真d) -- 笑顔がすてきな山間部の子どもたち (裸足)

(写真d)



(写真e)



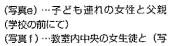
(写真日)



(写真f)



(写真h)



(写真f)…教室内中央の女生徒と(写真e)の女性とは同一人物である。 育児をしながら通学するこの女生 徒から、低年齢結婚に関する話題 に展開する。

(写真g・h)…低年齢出産の家庭の様子





フォトランゲージのグーループワークを通じて、自己開示・他者理解などソーシャルスキルを高めることもできる。何度か行うと生徒たちは要領をつかんできたようで楽しそうに活動した。



(菊池みずほさん/ソーシャルワーカー1989/12~ドミニカ共和国派遣)

― "シングルマザー"、25歳で8人の子持ち。愕然とする現実-

「実家で雇っているお手伝いさんは25歳なの。彼女は、何人の子持ちだと思う?」同僚からの質問でした。子供の数が多いだろうとは予想していましたが、8人とは、想像のつかない数字です。その上、父親がそれぞれ違うというではありませんか。信じられない現実に、愕然とするばかりです。

「彼女に、色々なことを教えたけど、何年かするとまた妊娠してしまって。彼女の力になれなかったわ。」 と、 同僚は嘆いていました。

当国を始めとするカリブ諸国では、家族形態を形成する内35%の割合で女性が家長をつとめていると言われています。いわゆる、シングルマザーが、多くの割合を占めているのです。

-10歳代の妊娠-

小中学校で生徒達の診療にあたっている歯医者さんから、「女生徒が10歳台で妊娠し、問題になっている。性教育をテーマに講義を開いて欲しい。」と、私達のNGOに依頼がありました。その学校では、昨年1年の間に14歳以下の女性徒が4名妊娠し、勉強を続けられなくなったというのです。

また、友人がホームステイをしているお家のお手伝いさんは19歳です。隣国ハイチとの国境付近の 出身者で、2人の子持ち、もちろんシングルマザーです。子供選は、田舎の彼女の両親が育てています。 彼女は、字が読めませんでした。仕事が無い時に、読器をすることも、雑誌を見ることも出来ません。 また、地方出身者の彼女は、友選と遊びに行って気分転換をすることも難しく余暇は、ずっとテレビを 見ることしか出来ませんでした。

このように多くの場合、10歳代での妊娠は多くの問題を引き起こしています。彼女選の多くは正しい知識がありません。日本では各学校に保健室があり、先生が保健衛生の知識を教えてくれますが、そのようなシステムが統一されていない為、勉強の機会にも恵まれない若者が大半を占めています。その為、無知が望まない妊娠を招き、教育を継続して受けられないことから、安定した職業にも就きにくく、多くのシングルマザーや、若い世代の母親の貧困を生む結果となっています。そして、多くの女性と子供達がその被害者になっていることは言うまでもありません。

ドミニカ共和国を始めとするカリブ諸国では、男性が不特定多数の性パートナーを持つことが容認されている「マチスモ文化」です。このような社会背景が、女性の社会的地位の低さに大きく影響していると考えます。

また当国は、94%をカトリック教者が占める旧教国家でもあります。このような宗教的背景の中では、 望まない妊娠に対する人工妊娠中絶は行なえません。

今後は、カトリックへも配慮し、男女を対象とした若い世代からのリプロダクティブへルスの予防啓蒙活動はより重要になってくると思います。もし多くの若者が正しい知識を持っていたら、望まない妊娠をしなくても済むと思うからです。

(資料は名古屋市立大高中学校の豊福先生からもご提供いただきました。)



※12 34~41時限 ユニセフ街頭募金Hand in Hand



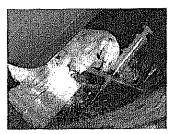


継続した開発教育の中で、生徒のエネルギーを社会との接点で成功体験に結びつけるという意味では、街頭察金活動も効果がある。単発的な活動、この日だけのイベント的参加ではあまり効果はないと思う。この活動の前後が大切であろう。

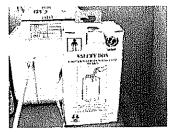
※13 42時限 ドミニカ共和国の社会開発Ⅱ (一部抜粋)



(写真j)



(写真k)



(写真1)



(写真m)

(写真j)…青年海外協力隊 (JOCV) として活躍する鈴木さん (看護師) の笑顔

(写真 k) …指導にもかかわらず放置される注射針

(写真1)…ユニセフの注射針回収ボックス

(写真m)…母子手帳の代わりにもなる予防接種記録カード

開発と支援は別なものであり、支援は、開発の過程に一時的に介入するものであるということを再認識した。住民参加型開発では、対等な関係で学び合う中で信頼関係を築き、地元の人々やカウンターパートの気付きと変化・持続可能な自立を促すことが大切であろう。

参加動機およびブロブイール

濱田 泰輔 🕏

新卒の頃、自分が見たこともない国や地域のことを教室で語ることに限界と嫌悪感を感じ、世界を自分の目で見てみようと決意しました。アジアを中心に地理教材を求め歩き、教室では自作スライトや民族衣装を活用しながら生きた地理教育・国際理解教育を実践してきました。"見てきたことは語れる"、生徒の目が輝きました。やがて、地球規模の諸問題と私たちとの関連性や国際協力について考え始め、私たちの身近な生活と世界を結びつけた実践を通して、生徒の生き方そのものに問いかけることができないものかと試行錯誤するようになりました。そして、開発教育や国際開発学の道に迷い込んだのです。1996年には、パングラデシュのCBOを基幹教材に位置付け、生徒会とともにお互いの顔が見える国際協力・国際交流を展開しました。それ以来、定期的にパングラデシュ農村部を訪問し、支援活動を通した多岐に渡る授業実践を展開しています。教師海外研修では、また足を踏み入れたことがない中米を身体全体で体感し、風の臭いまでも糧にしたいと思い参加しました。